

て來るのである。而して其の年代直觀圖とは如何なるものであるかといへば大體に於て歷史上に於ける時代を幾つかに分け、各時代に於ける重要なる事項を簡略に記し、且つ重要なる事項例へば佛教の傳來、大化の改新、幕府の創立等の紀元年數を記し、之に歴代の天皇を順記すればよいのである。而して此等の直觀圖は歴史教授の際にのみ之を兒童に示すべきものでなく、常に教室に掲げ置きて兒童をして知らず識らずの間に年代前後の關係を知らしむるやうにする必要があるから、縦に長さものよりも横に長さものを製する方が揭示上都合よいのである。

(ロ) 歴史地圖 次に必要なるものは歴史地圖である。抑、歴史上の事蹟は、常に何時如何なる場所て如何なる事實が起つたかといふことを知らしむることが必要であつて、地理上に密接の關係があるのである。然るに普通の地圖ては歴史上の事蹟を明確に説明することが困難であるから、是非とも本科教授用として、重なる各時代に對して、それ／＼特別の歴史地圖を要するのである。即ち王化普及の状態、權力爭奪の状態、群雄割據、諸侯封建の状態、征討順路、交戰

の状態等を具體的に示す歴史地圖が必要なのである。

(ハ) 實物、標本、繪畫 次には實物、標本、繪畫の類を用ふることである。此等は最も説明に便利で、且つ兒童の感興を惹起するに適するから、出來得る限り之を備付け十分に之を利用することを怠つてはならぬ。歴史事實は單に想像によりて領解せしむることが多いのであるから、實物、繪畫、標本等の何れにもよらずして教授する時は、兒童をして明確に理解せしむることが困難なのである。之を例すれば古代の風俗とか文化の程度とかを知らしむるには、如何程口舌の妙を盡しても、到底十分なる想像を得しむるとは六ヶ敷いのである。斯かる場合に古代の石器とか、土器とか、裝束圖解とかいふやうな物を用ひたならば、一見直に之を解せしむることが出來るのである。其の他人物の事蹟にしても、戰爭の概要にしても、其の活動の一斑を繪畫に表はし、之によりて教授を進行せしめたならば、兒童は大なる興味を以て之を迎へ、従つて記憶を確實にすることが出來るのである。それ故に今回改訂の教科書には舊教科書に比して澤山の繪が挿入してあり、且つ教則には、日本歴史ヲ授クルニハ成ルベク圖

畫地圖、標本等ヲ示シ兒童ヲシテ當時ノ實況ヲ想像シ易カラシメ云々と規定してある次第である。

本科教授上の注意

三 本科教授上の注意

- (イ) 各教材につき第四學年以下の修身、國語中に現はれたる歴史的教材との連絡關係を明かにし、以て本科教授の出發點となすべし。
- (ロ) 郊外教授または遠足、運動を具案的のものとなし、歴史的資料に關する事項は直觀的方便物に訴へて、明瞭に其の事實を腦裏に描出せしむるやうに仕組むべし。
- (ハ) 各教材に應じて言語態度に注意するは勿論、特に皇室に關する事項を説明する場合には謹嚴慎重なる言語態度を以てすべし。
- (ニ) 各教材につき教授の主要目的を明かにし、決して枝葉の事項に涉りて徒らに補説敷衍を加へざる様注意すべし。
- (ホ) 講話の際には成るべく教科書中の語句を使用して教科書との關係を密接にし、且つ成るべく教科書中の挿畫、卷末附録の御歴代表、並に各民族の略系等を利用し、以て教科書の取扱を丁寧懇切にすべし。
- (ヘ) 講話の際には實物、繪畫、標本、地圖等を使用して兒童の直觀に訴ふる工夫をなすべし。
- (ト) 課題人物によりて年代の觀念を明かにし、且つ其の功績と相俟ちて道德的教訓を施すべし。
- (チ) 出來事を課題とせる材料を取扱ふには特に原因、經過、結果を明かにし、且つ其の事實によりて道德的教訓を加ふべし。

四 日本歴史科教授の實際

日本歴史に關する概念の整理

(一) 教授の要項

- (1) 修身科及び國語科に於て授けたる左記の人物並に事件につきて觀念の整理(肖像)

皇大神宮、和氣清麿、徳川光圀、松平定信以上修身書、皇大神宮、神武天皇、藤原鎌足、奈良大佛、菅原道真、一の谷の戰、楠木正行、豊臣秀吉以上讀本)

日本歴史科教授の實際
日本歴史に關する概念の整理

- (2) 校外教授にて觀察せしめたる事項につきての整理
- (3) 年代圖表の讀方見方につきて整理(年代圖表)

(二) 教授上の注意

- (1) 人物事件の復習は極めて大要に止め、主として年代觀念を得しむることに注意すべし
- (2) 校外教授は各地方にて適當なる事物場所を選定すべし

第一 天照大神

(一) 教授の要項

- (1) 天皇陛下の御先祖(萬世一系)
- (2) 大日本帝國の建國の基礎確定神勅、日本(地圖)
- (3) 三種神器(繪畫、伊勢神宮の繪畫)
- (4) 天孫降臨

(二) 教授上の注意

- (1) 修身卷二第十九課「皇大神宮」、讀本卷五第一課「天の岩戸」、同卷八第一課「皇大

- 神宮、同卷九第一課「草薙劍」と聯關して教授すべし
- (2) 我が國體の世界萬國に比類なきことを知らしむべし
- (3) 皇室と臣民との關係及び其の由來する所の宏遠なることを知らしむべし
- (4) 伊勢神宮の繪畫によりて神代に於ける建築の有様を知らしむべし
- (5) 三種の神器の大切なることを知らしめ且つ神宮に對する心得を諭すべし
- (6) 神勅は必ず之を暗誦せしむべし

第二 神武天皇

(一) 教授の要項

- (1) 御東征(天皇御影、御征東地圖)
 - (イ) 當時の都と東方の有様
 - (ロ) 御東征の道筋と御困難
 - (ハ) 大和地方の平定
- (2) 御即位
 - (イ) 大和橿原橿原神宮圖
 - (ロ) 紀元節
 - (ハ) 神武天皇祭

(二) 教授上の注意

- (1) 讀本卷五第三課「神武天皇」、修身卷三第十五課「祝日」、同卷四第二十三課「祝日

大祭日と關聯して紀元節、神武天皇祭、金鷄勳章等のことを教授すべし

- (2) 神勅との關係をよく十分に悟らしむべし
- (3) 御東征の御困難を述ぶると共に上下の武勇に感奮せしむべし
- (4) 本文に記載なき挿畫八咫鳥のことを適當に取扱ふべし

第三 日本武尊

日本武尊

(一) 教授の要項

- (1) 崇神天皇の御世
 - (イ) 神武天皇以後數代の有様 (ロ) 四道將軍
- (2) 日本武尊の熊襲征伐(肖像)
 - (イ) 熊襲 (ロ) 御征伐の模様挿畫(擴大圖)
- (3) 日本武尊の蝦夷征伐
 - (イ) 蝦夷の狀況 (ロ) 尊征討の有様(挿畫(擴大圖)) (ハ) 草薙劍と熱田神宮熱田神宮圖 (ニ) 尊の薨去

(二) 教授上の注意

神功皇后

第四 神功皇后

(一) 教授の要項

- (1) 仲哀天皇の熊襲御親征
- (2) 神功皇后の三韓征伐(肖像、三韓地圖、日本地圖)
 - (イ) 原因 (ロ) 出征 (ハ) 新羅王降る (ニ) 朝貢の約
- (3) 學問技藝の傳來
 - (イ) 三韓の國情 (ロ) 王仁の來朝

(二) 教授上の注意

- (1) 皇威益々振興して海外に輝き遂に文物の傳來を來せしことを知らしむべし
- (2) 日韓の關係を今日と比較せしむべし
- (3) 我が國民の古來勇武にして内外に發展せしことを知らしむべし

第五 仁徳天皇

(一) 教授の要項

- (1) 天皇の御仁慈挿畫擴大圖
 - (イ) 飢饉 (ロ) 免租三年 (ハ) 宮殿の破損 (ニ) 人民の殷富、天皇の御喜 (ホ) 宮殿の工事

(2) 天皇の勸農

- (イ) 河川の修理 (ロ) 池溝の開鑿

(二) 教授上の注意

- (1) 天皇の仁慈によりて我が祖先の皇恩に浴したる状況を回想せしむべし
- (2) 前數章と相對して内治的整理的の御徳を悟らしむべし

第六 物部氏と蘇我氏

(一) 教授の要項

- (1) 上古の氏族制度及び家職
- (2) 佛教傳來(地圖)

第七 聖徳太子

(一) 教授の要項

- (1) 太子の聰明(肖像)
- (2) 太子の攝政
 - (イ) 女帝と攝政 (ロ) 政治上の改良 (ハ) 憲法十七條
- (3) 支那との交通
 - (イ) 遣隋使及び留學生 (ロ) 學問工藝の傳來
- (4) 佛教の隆盛

(イ) 四天王寺、法隆寺 (ロ) 美術の進歩

(二) 教授上の注意

- (1) 十七箇條の憲法は政治道德の標準を示したるものにて我が國法の始めなることを知らしむべし
- (2) 攝政のことは現今の制と比較せしむべし
- (3) 支那との交通は大化改新の原因となるものなれば其の心して教ふべし
- (4) 佛教の興隆と美術工藝の發達とを對照して教授すべし
- (5) 太子の御肖像によりて上古の服裝の概要を知らしむべし

第八 天智天皇と藤原鎌足

(一) 教授の要項

- (1) 蘇我氏の專横
 - (イ) 皇位繼承に干渉す (ロ) 聖德太子の御子孫を滅す
 - (2) 入鹿父子誅せらる
- (イ) 中臣鎌足(肖像) (ロ) 中大兄皇子(挿畫擴大圖)

天智天皇
と藤原鎌
足

(3) 大化の改新

- (イ) 孝德天皇御即位 (ロ) 中大兄皇子皇太子 (ハ) 皇太子、鎌足、天皇を輔佐す
- (ニ) 大化の年號(紀元一千三百五年)

(二) 教授上の注意

- (1) 讀本卷八第十五課「藤原鎌足」と關聯して教授すべし
- (2) 大化の改新は聖德太子の施政とを支那文物輸入の結果とに基けることを知らしむべし
- (3) 中大兄皇子の智略と鎌足の至誠とを十分に知らしむべし

第九 天智天皇と藤原鎌足(つづき)

(一) 教授の要項

- (1) 大化改新の政治
 - (イ) 土地人民私有の弊風 (ロ) 皇太子の上書 (ハ) 土地人民の奉還
- (2) 三韓の離叛(地圖)
 - (イ) 齊明天皇の御即位 (ロ) 新羅唐の助を借る (ハ) 我が軍の不利 (ニ) 皇太子

天智天皇
と藤原鎌
足

の英斷

- (3) 蝦夷の服從
 - (イ) 日本武尊の征伐以後 (ロ) 阿倍比羅夫(挿書擴大圖)
 - (4) 律令の制定
 - (イ) 天智天皇御即位 (ロ) 近江朝廷の令 (ハ) 大寶律令
 - (5) 藤原氏の始め
 - (イ) 鎌足の勳功 (ロ) 藤原姓の下賜
- (二) 教授上の注意
- (1) 聯絡事項前課に同じ
 - (2) 改新は範を支那の制度に取りたることに注意すべし
 - (3) 三韓を保つよりも内政改善の急務なりしことを理解せしむべし
- 第十 聖武天皇
- (一) 教授の要項
- (1) 奈良の京(奈良の圖)

- (イ) 元明天皇 (ロ) 遷都の理由 (ハ) 奈良朝(七代七十餘年間)
 - (2) 佛教の興隆
 - (イ) 聖武天皇 (ロ) 國分寺 (ハ) 東大寺大佛(繪畫)
 - (3) 光明皇后
 - (イ) 佛教尊信 (ロ) 慈善事業
- (二) 教授上の注意
- (1) 讀本卷五第六「ナラノ大ブツ」と聯關して教授すべし
 - (2) 歴代の帝都は多く大和地方に在りしことに注意すべし
 - (3) 外國との交際が國內各種の方面に變化を與ふることを現代と比較して理解せしむべし
 - (4) 大佛其の他の遺物によりて當時の文明美術の發達を説くべし
 - (5) 奈良朝に至りて佛教の地方に傳播せし點に注意せしむべし
 - (6) 光明皇后は藤原氏外戚の始めなることを知らしむべし
 - (7) 皇后の慈善事業は現代と比較對照せしむべし

第十一 和氣清麻呂

(一) 教授の要項

- (1) 佛教隆盛と僧侶
 - (イ) 名僧行基の布教と人民の便益 (ロ) 道鏡の無道
- (2) 和氣清麻呂の忠烈挿畫の擴大圖
 - (イ) 道鏡の威嚇 (ロ) 宇佐八幡の神教 (ハ) 清麻呂の貶謫 (ニ) 清麻呂の召還光仁天皇

(二) 教授上の注意

- (1) 修身卷三第二「忠君」和氣清麻呂と聯關して教授すべし
- (2) 道鏡清麻呂阿曾麻呂の心事を比較對照せしめて道德的訓誡を與ふべし
- (3) 宇佐八幡は當時伊勢神宮に次いで朝廷に尊崇せられしとを知らしむべし
- (4) 清麻呂奏上の語は暗誦せしむべし
- (5) 誠忠のものと無道のものとの因果應報の理を了解せしむべし

第十二 桓武天皇

(一) 教授の要項

- (1) 平安京奠都(桓武天皇御影、平安京略圖、平安神宮繪畫)
 - (イ) 平安京と地形 (ロ) 一千七十餘年間の帝都
- (2) 蝦夷征伐
 - (イ) 阿倍比羅夫征討以後の蝦夷 (ロ) 坂上田村麻呂(肖像)
- (3) 名僧と布教
 - (イ) 傳教大師と比叡山(肖像) (ロ) 弘法大師と高野山(肖像)
- (4) 平安時代の盛時

(二) 教授上の注意

- (1) 讀本卷九第十八課坂上田村麻呂と聯關して教授すべし
- (2) 年代圖によりて平安京奠都の一千四百五十四年なることを暗誦せしむべし
- (3) 平安京遷都の理由につき注意せしむべし
- (4) 弘法傳教兩大師は我が國佛教の建設者たる位置にあるを明にすべし

第十三 菅原道真

(一) 教授の要項

(1) 藤原氏の繁榮

(イ) 鎌足以後朝廷との關係 (ロ) 攝政關白の始め

(2) 宇多天皇と菅原道真

(イ) 天皇の御計畫 (ロ) 道真の登用(道真の肖像)

(3) 醍醐天皇の御仁慈

(4) 道真の左遷

(イ) 時平の讒言 (ロ) 太宰府へ左遷 (ハ) 道真の謹慎(挿畫擴大圖) (ニ) 死後の光榮

(二) 教授上の注意

(1) 讀本卷九第二十三課「菅原道真」と連絡して教授すべし

(2) 醍醐天皇の道真を左遷せられしは讒者の企によるものにして、之が爲に御聖徳を傷くることなきを注意すべし

(3) 道真の配所に於ける行動を敬慕せしめ至誠奉公の念を養成すべし

第十四 朝臣の榮華と武士の起

(一) 教授の要項

(1) 朝臣の榮華

(イ) 藤原氏の勢力 (ロ) 宴樂(繪畫)

(2) 武士の起

(イ) 朝廷の御威光薄らぐ (ロ) 地方の政治亂る (ハ) 都に志を得ざる者地方に下る

(3) 將門、純友の叛

(4) 藤原氏一門の權力争ひ

(5) 藤原道長の勢力(肖像)

(イ) 天皇との關係 (ロ) 攝關

(6) 後三條天皇藤原氏の權勢を抑へ給ふ(御影)

(7) 院政

(二) 教授上の注意

- (1) 藤原氏の専權榮華の狀況と武士の起原、院政の由來との關係を明にすべし
- (2) 武士の勇敢と朝臣の優柔とを比較對照せしめ世態一變の止むを得ざる理由を悟らしむべし

源義家

第十五 源義家

(一) 教授の要項

(1) 義家の父祖(系圖)

- (イ) 清和天皇の後裔 (ロ) 經基の勳功 (ハ) 賴信賴義の功績

(2) 前九年の役

- (イ) 安倍賴時の反 (ロ) 賴義、義家の討伐 (ハ) 賴時を誅す (ニ) 貞任の勢力
- (ホ) 清原武則の助力

(3) 後三年の役

- (イ) 清原氏一門の争 (ロ) 義家の出征 (ハ) 剛臆の座を分ちて將士を勵ます
- (ニ) 伏兵を討取る(挿畫の擴大圖) (ホ) 藤原清衡の勢力 (ヘ) 義家の論功行賞

平清盛

(二) 教授上の注意

- (1) 坂上田村麻呂征東以後の奥羽地方の概況を説話すべし
- (2) 源氏の東國に勢力を得たる理由を悟らしむべし

第十六 平清盛

(一) 教授の要項

(1) 清盛の父祖(系圖)

- (イ) 桓武天皇の後裔 (ロ) 貞盛の功績 (ハ) 忠盛の威名

(2) 保元の亂

- (イ) 皇室に於ける御父子御兄弟の不和、藤原氏の權力争ひ (ロ) 白河殿陥る
- (ハ) 上皇方の處分

(3) 平治の亂

- (イ) 義朝信賴の不平 (ロ) 重盛の奮戰(挿畫擴大圖) (ハ) 信賴義朝誅せられ賴朝伊豆に流さる

(4) 平氏榮え源氏衰ふ(清盛肖像)

(二) 教授上の注意

(1) 保元の亂の原因中皇室の御不和は成るべく軽く之を取扱ふべし

第十七 平清盛 つゞき

(一) 教授の要項

(1) 平氏の隆盛

(イ) 平氏一門の高位高官 (ロ) 反對者

(2) 清盛の横暴と重盛の忠孝

(イ) 清盛の不法行爲 (ロ) 重盛の諫止 (ハ) 重盛の薨去と清盛の横暴

(3) 源頼政の擧兵

(イ) 以仁王の令旨 (ロ) 宇治川の戦敗 (ハ) 諸國の源氏起る

(二) 教授上の注意

(1) 清盛の横暴と重盛の忠孝とを比較對照せしめ尊王誠忠の志操を涵養すべし

(2) 重盛の薨去が平氏の滅亡を早からしめたることを知らしめ人心向背の歸

する所を悟らしむべし

第十八 源頼朝

(一) 教授の要項

(1) 源氏の蜂起

(イ) 頼朝東國に起る(肖像) (ロ) 義經奥州より來る (ハ) 木曾義仲北國を從へ京
都に迫る

(2) 平氏の都落

(イ) 平氏驕になれて力弱し (ロ) 清盛の薨去 (ハ) 宗盛西國に落行く

(3) 源義仲の反

(イ) 義仲の専横 (ロ) 義仲の戦死

(4) 平氏の滅亡

(イ) 福原の戦(挿畫擴大圖) (ロ) 屋島の戦 (ハ) 壇浦の戦

(5) 頼朝の天下平定

(イ) 頼朝義經兄弟の不和 (ロ) 奥州征伐

(6) 鎌倉幕府

(イ) 武家政治 (ロ) 武士道の獎勵(流鏑馬、犬追物の繪畫)

(二) 教授上の注意

- (1) 驕る平家久しからずの語をよく味はしむべし
- (2) 武家政治の創設は政治上の大變化なることを知らしむべし
- (3) 幕府創設の年代(紀元一千八百五十二年)は之を記憶せしむべし
- (4) 福原の戦は讀本卷五第二十三、第二十四課、ひよどりごまのさかむとしと關聯して教授すべし
- (5) 武士道と頼朝の武士養成とは注意すべし
- (6) 挿畫は本文になき事實なるも適宜に解説敷衍すべし

第十九 承久の亂

(一) 教授の要項

- (1) 北條時政頼朝を助く
- (2) 源氏の滅亡

(イ) 頼朝骨肉を殺ぐ (ロ) 頼家實朝の最後 (ハ) 北條氏執權

(3) 承久の亂

(イ) 北條氏の專横、後鳥羽上皇の御憤 (ロ) 泰時京都に攻め上る (ハ) 官軍の敗戦 (ニ) 三上皇を遠島に遷し奉る

(4) 六波羅探題の設置

(二) 教授上の注意

- (1) 源氏の三代にして滅亡したる所以を悟らしむべし
- (2) 北條義時の皇室に對して無禮なりし點を明にし反面より忠孝節義の念を鼓舞すべし

第二十 元寇

(一) 教授の要項

- (1) 北條泰時及び時頼の善政
- (2) 北條時宗の果斷蒙古の使者を斥く(亞細亞洲地圖)
- (3) 文永の役

- (イ) 蒙古の強大 (ロ) 九州に來寇 (ハ) 我が將士の勇敢 (ニ) 元軍の退却 (ホ) 時宗元の使者を斬る
- (4) 弘安の役
 - (イ) 元の支那統一 (ロ) 再度の來寇 (ハ) 我が將士の奮戰挿畫の擴大圖 (ニ) 敵艦颯風に遇うて覆没す (ホ) 龜山上皇のこと (ヘ) 舉國一致
- (二) 教授上の注意
 - (1) 北條氏が陪臣の身を以て久しく鎌倉幕府を維持せし所以を了解せしむべし
 - (2) 上皇の宸慮時宗の果斷將士の忠勇を知悉せしめて義勇奉公の念を涵養すべし

北條氏の滅亡

第二十一 北條氏の滅亡

- (一) 教授の要項
 - (1) 後醍醐天皇肖像
 - (イ) 天皇の英明 (ロ) 北條氏の專横 (ハ) 天皇北條氏を倒さんと謀り給ふ

(2) 北條高時

- (イ) 宴遊に耽り政治を怠る (ロ) 天皇の御企 (ハ) 笠置山行幸 (ニ) 隱岐へ御遷幸(地圖)

(3) 勤王の人々(肖像)

- (イ) 楠木正成 (ロ) 護良親王 (ハ) 諸國の豪族

(4) 鎌倉幕府倒る(地圖)

- (イ) 天皇隱岐を逃れ給ふ (ロ) 名和長年の守護 (ハ) 足利尊氏六波羅を陥る
- (ニ) 新田義貞高時を鎌倉に誅す

(二) 教授上の注意

- (1) 高時の驕奢と泰時時頼の善政とを比較對照せしめて北條氏滅亡の原因を悟らしむべし
 - (2) 楠木正成の勤王の魁をなしたる點に感奮興起せしむべし
- 第二十二 建武の中興**

(一) 教授の要項

建武の中興

(1) 政權朝廷に返る

- (イ) 天皇の御還幸 (ロ) 御親政 (ハ) 論功行賞

(2) 足利尊氏の反(地圖)

- (イ) 尊氏の先祖(系圖) (ロ) 尊氏の心事 (ハ) 護良親王尊氏を除かんとし給ふ
- (ニ) 護良親王の災厄(鎌倉宮の繪畫) (ホ) 尊氏鎌倉に反す (ヘ) 義貞の追討 (ト)
- 尊氏兄弟京都に攻め上る (チ) 叡山行幸 (リ) 勤王の諸將尊氏を破る

(二) 教授上の注意

- (1) 尊氏の心事と勤王諸將士の心事とを比較對照せしめて道德的批評をなさしむべし

- (2) 當時の武士が朝廷の恩賞に不平を抱ける心事の陋劣を領解せしむべし

第二十三 吉野の朝廷

(一) 教授の要項

- (1) 湊川の戦
 - (イ) 尊氏兄弟の東上 (ロ) 義貞兵庫に防ぐ (ハ) 正成の應援 (ニ) 正成兄弟の戦

吉野の朝廷

死(正成の銅像圖、湊川神社繪畫) (ホ) 義貞の退軍 (ヘ) 叡山行幸 (ト) 長年の戦死

(2) 吉野の朝廷

- (イ) 尊氏光明院を擁立す (ロ) 京都御還幸 (ハ) 吉野の御遷幸

(3) 官軍の有様

- (イ) 北畠顯家、新田義貞の戦死 (ロ) 後醍醐天皇の崩御 (ハ) 北畠親房、楠木正行の誠忠 (ニ) 正行兄弟の戦死(四條畷神社繪畫、正行の肖像) (ホ) 親房の病死 (ヘ) 菊池武光の威一時九州に振ふ

(4) 京都の有様

- (イ) 尊氏幕府を開く (ロ) 部下將士の内訌

(5) 京都還幸

- (イ) 義満兩朝の御和睦を謀る (ロ) 兩統一

(6) 忠臣の追賞

(二) 教授上の注意

(1) 正成義貞等の誠忠につき充分に了解せしめ、一旦緩急アレハ義勇公ニ奉シ
の意のある所を知らしむべし

第五節 地理科教授

本科教授の方針

本科教授の要旨は教則に左の通り規定してある。

地理ハ地球ノ表面及びビ人類生活ノ状態ニ關スル知識ノ一斑ヲ得シメ又本邦國勢ノ大要ヲ理解セシメ兼テ愛國心ノ養成ニ資スルヲ以テ要旨トス

右に掲げたる教則の規定に依れば、本科教授の要旨は次の三項に分れるのである。即ち(一)地球の表面及び人類生活の状態に關する知識の一斑を得しむること。(二)本邦國勢の大要を理解せしむること。(三)愛國心の養成に資することは是れである。以下少しく之が解説を試み、教授上如何なる方針を採るべきかを述べて見よう。

(1) 地球の表面及び人類生活の状態に關する知識の一斑を得しむること 前半は吾々が生存して居る此の地球の表面が如何なる状態であるかといふことを知

らしむるので、所謂自然地理に屬すべきものである。而して後半は吾々人類が此の地球上に如何なる有様に生存し活動して居るかといふことを知らしむるので、即ち人文地理に屬すべきものである。而して此の兩者は相互に切實なる關係があるのであるから、決して別々に取扱つてはならぬのである。例へば海岸線の屈曲、港灣の有無、潮流の關係が如何程まで吾々人類の生活上に影響し、山川、平野、氣候の寒暖等が如何程まで吾々人類の生活上に關係を及ぼすかと云ふやうなことは、決して別々に取扱ふべきものでなく、相關聯し相連結して教授すべきものである。併しながら此の兩者の間には、自ら本末輕重の別があつて、土地自然の状態即ち自然地理の中でも、吾々人類の生活上に關係の薄いものや若しくは全く關係のないやうなものは、餘り之を教授する必要はないのである。換言すれば此の自然地理は人文地理を説明する上の基礎的要素となり、必然的基礎となるものである。それ故に本科教授に際しては能く此の趣旨を明にし、徹頭徹尾人生生活といふことを主眼とし、土地自然の状態の如きは此の主目的に直接若くは間接の關係ある事項に關してのみ、大體の一般概念を得しめると

いふ様に致さねばならぬのである。

(2) 本邦國勢の大要を理解せしむること 是は國民生活上まことに重要なることであつて、吾々國民たる者は是非とも心得て居らねばならぬことである。即ち我が國の富力文化の程度は如何、政治經濟の有様は如何、更に之を世界各國の現状より見たる我が國の位置現狀は如何、將來我が國の發展進歩は如何にして之を期し得べきか等の事を知らしむるので、吾々國民たる者が其の本分を盡す上には、是非共心得ておかねばならぬことである。若しも國民が此等のことを知らないで居たならば、たとひ其の眞心は國家の爲に盡し、國家の爲に貢獻するつもりであつても、思はず知らず國家の爲にならぬ事を仕出かすやうなことになる、到底其の目的を達することが出来ないものである。それ故に此の事は實に吾々國民たる者の義務と心得て、是非とも之を知らせて置くやうにせねばならぬのである。

(3) 愛國心の養成 是は前二項の實質的方面の任務に對する、形式的方面の修養である。而して此の愛國心の養成といふことは、決して本科のみに限らず總べ

ての教科目を通じて心掛けねばならぬことであるけれども、本科は教科の性質上、最もよく之に適するから、特に茲に明示せられた譯なのである。蓋し凡そ愛は知ることによりて起るもので、我が國の自然美を味はしめ、我が國勢の眞情を知悉せしめたならば、茲に眞正の愛國心といふものが油然而として起り來るのである。若しも此等の事情を知悉せしめずして、單に愛國心を鼓吹するに過ぎなかつたならば、或は偏見に陥り或は固陋尊大に失して、到底眞正の愛國心を養成することは出来ないものである。それ故に此の愛國心の養成といふことは、極めて重要な附帶的事業と心得て、十分に此の目的を徹底する様にしなければならぬのである。

二 本科教授の材料

(1) 教科書の内容 本學年使用の教科書は「第一日本帝國」といふ題目の下に日本地理の總論を教ふるを始めとし、以下關東地方(一)地方誌、關東地方(二)府縣誌といふ様に、漸次小區劃に涉りて該地方の地理を授け、中國地方(一)(二)に至つて終ることになつて居るのである。而して記述の體裁は、地勢、産業、交通等の如き其の地

方共通のものは成るべく之を其の地方に於て概括して記述することとし、其の局部に止るものは、之を各府縣誌の下に記述することになつて居るのである。尙ほ詳細に涉りて此等の要點を列記すれば凡そ左の通りである。

- (イ) 本學年使用の教科書は、帝國地理の總論及び本州の地理で、第一大日本帝國、第二關東地方(一)、第三關東地方(二)、第四奥羽地方(一)、第五奥羽地方(二)、第六中部地方(一)、第七中部地方(二)、第八近畿地方(一)、第九近畿地方(二)、第十中國地方(一)、第十一中國地方(二)である。
- (ロ) 各地方の(一)は、該地方の總論ともいふべきもので、位置、地勢、産業、交通、行政上の區分の五項を設け、系統的に之を記述し、其の(二)は各府縣の位置、地勢、都邑並に特殊の事項に就きて順次に之を記述してあるのである。
- (ハ) 位置は當該地方が本州の何れの部分にあるかを記し、且つ既授地方との關係を明にしてある。
- (ニ) 地勢は一、二、三或は一、二の小節に分ちて稍詳細に之を記述し、當該地方の最も著しいことを先にして居るから、記載の順序は必ずしも一樣でない。

- (ホ) 都邑は帝都及び各府縣廳所在地は勿論、府縣廳所在地以外の市も必ず之を記し、其の他は軍事、産業、交通、名勝舊蹟に亘りて必要と認むるものを掲げることにしてある。
- (ヘ) 交通は地勢産業と共に當該地方の總論の部に於て之を授け、且つ帝都と重なる都會との距離を鐵道幹線の哩數によつて示してある。
- (ト) 氣候は日本の總論の部に於て述べてある外、概ね之を略してあるけれども、中部地方や日本海方面の雪の深いことや、冬季風波の荒いことなどは特に記述せられてある。
- (チ) 産物は其の産額が全國に於て屈指のものを掲げ、産額の多くないものも、其の名聲の著しいものは特に之を記すことにしてある。
- (リ) 其の他山岳に就きては、其の高さ、風景、温泉、佛閣、歴史、交通等の關係より之を採り、平野、河湖、島嶼、半島、海灣、海峡は其の顯著なるもののみを、擧げ岬角は殆ど皆之を略してある。

(2) 教材の取捨 教科書の内容組織は前に述べた通りであるが、實地の教授に際

しては、其の地方の事情に應じて各多少の斟酌を加へねばならぬ。即ち教科書は全國の學校に於て一樣のものであるけれども、之を潤色し敷衍する資料は、地方に依り學校に依りて大に其の實質を異にすべきである。之を例すれば京都府では京都府の地理を比較的詳細に敷衍し潤色して教へ、更に近府縣並に之と密接の關係ある府縣を詳細に教授し比較的關係の薄い地方は成るべく重要な事項を授くるに止め、其の他は更に大略に止める様の類である。而して斯の如きは嚮に所謂本科教授の趣旨に適合するもので、兒童後來の實際生活を中心として教材を取捨選擇するといふことは本科の教授上必要なことである。

(3) 地理の活材料 前に述べた通り、地理科は現代の國勢を理解せしめ、人生生活の状態を知悉せしめるを主眼とする教科目であるから、其の教材は極めて新鮮なる活事實でなければならぬのである。蓋し山川、平野、位置、地勢の如き自然地理は、必ずしも常に移動するものではないけれども、苟も此等が人生に關係する方面即ち主として人文地理の方面にあつては、其の關係状態といふものは常に變移進行しつゝあるものであるといふことは今更論ずるまでもないことであ

る。即ち人口の如き、生産の如き、軍備の如き、又都市の盛衰、交通機關の發達の如き、總て人生生活の實際に於ける社會的事實といふものは、時々刻々少しの休みもなく、常に進化發展しつゝあるのである。それ故に常に此等の活材料を日々新聞、官報又は月々の雜誌、年々の統計年鑑等によりて調査し、絶えず新鮮なる活材料を以て教科書を潤色し補正して行くといふことは、まことに親切なる方法であつて、兒童の爲には大なる利益になるのであるから、教師は此の方面に關して十分に努力せねばならぬのである。

(4) 經濟的地理 人生生活の事實上、此の經濟的關係といふものは最も重要な位置を占めて居るものであつて、經濟的關係を離れて人生生活の事實といふものは殆ど成り立ち得ないのである。随つて本科の教授に際しても、此の經濟的關係を度外視したならば、殆ど地理としての價值を認めることは出来ないものであるから、教師は各教材を必ず此の經濟的關係の下に結び付け、兒童をして確實なる經濟的思想を得しむる様にしなければならぬのである。例へば産物を教ふるにしても、只其の地方産物の名を記憶せしめただけでは、何の役にも立たな

いのであつて、必ずや其の産物と其の地方の人生生活との間に如何なる經濟的關係があるかといふことを知らしめねばならぬのである。其の他都市の盛衰にしても、交通機關の發達にしても、皆此の經濟的事情の下に左右せられて居るのであるから、豫め此等の事情を十分に調査し、教授に際して遺算なきことを期するは教育者として當然務めねばならぬところである。

(5) 修養的地理 從來の地理は一般に遊覽的、歴史的、娛樂的の事項に重きを置き、所謂名所舊蹟の如きものも、此の意味に於て最も重く取扱はれて來たのである。併しながら今後の地理教授に於ては、決して斯かる呑氣なことで満足することは出來ないのであつて、名所舊蹟の如きは、これによりて我が國の自然美を味はしめ、國民性の長所美點を知らしめ、依りて以て國民的思想の修養に資するやうにせねばならぬのである。それ故に今後は大に此の點に關して反省せねばならぬと信ずるのである。

(6) 教授の用具

(イ) 地圖 地理教授を確實にする爲に第一に必要なものは地圖である。地

修養的地

具教授の用

理は郷土の直觀を基礎として遠隔の地方の事を想像せしめるものであるから、是非とも地圖の助けを借らなければならぬことは今更申すまでもないのである。それ故に文部省に於ては教師用並に兒童用の地圖を發行して教授の便宜を圖つて居るが、尙ほ特殊の事項を教授するためには教師自ら特殊の地圖を製作して之を用ふる様にしたならば、得る所が頗る多からうと信ずるのである。

(ロ) 地理模型 地圖は總べてのものを平面に表はしたもので、餘程抽象的であるから、見慣れないものには餘程想像がつきにくいのである。故に地理模型を作り、郷土は勿論、大略我が國の山川、都會、交通等の状態を示し、更に之を地圖と對照して兒童の讀圖力を養成したならば、本科の教授上得る所が甚だ多からうと信ずるのである。

(ハ) 實物、標本、寫眞、繪葉書等 次に必要なるものは實物、標本、寫眞、繪葉書等の類である。此等は何れも事物の真相を知り、又其の真相を想像理解せしむる上に必要なものである。それ故に平素より出來得る限り此等の物品を蒐集し

置き、教授の場合に十分これを利用するやうに努めねばならぬのである。

(ニ) 各種の統計圖表 國勢の概要を理解せしむるには是非とも各種の統計を要するのであるが、數字的統計は無味乾燥であつて、迥も兒童の頭には入りにくいから、其の材料を巧に統計圖表に示して、之を教授上に利用する様に致したいのである。而して其の種類は多種多様であるが、本學年に於ては凡そ左の圖表だけあれば十分である。

- 輸出入比較表 軍備一覽表 歲出入一覽表 生産一覽表 面積人口比較一覽表 交通機關比較一覽表等

三 本科教授上の注意

- (イ) 第四學年以下の讀本中にある地理的事項との關係を明にし以て本科教授の出發點となすべし。
- (ロ) 校外教授又は遠足運動を具案的のものとし、地理的材料に關する事項は直觀的に教授する様仕組むべし。
- (ハ) 地圖の觀察を出來得る限り數多く練習せしむべし。

本科教授上の注意

- (ニ) 自然地理と人文地理とは出來得る限り相關聯して之を教授するやう努むべし。
- (ホ) 時々刻々に移動變化する活材料の蒐集補充を怠るべからず。
- (ヘ) 生活的方面に重きを置き、娛樂的遊覽的方面説明の弊に陥らざる様注意すべし。
- (ト) 各種の直觀方便物を使用して正確なる觀念を得しむる様注意すべし。
- (チ) 本科の教授は他の教科特に歴史科並に理科との聯絡を十分に圖るやう注意すべし。
- (リ) 時々想像的旅行案を製作せしめ學習したる知識の實地活用を試むべし。
- (ヌ) 地理筆記帳を用意せしめ教授中敷衍したる事項を筆記せしめ、且つ既授事項の系統表を作らしむべし。

四 地理科教授の實際

地理概念の整理

- (一) 教授の要項

地理科教授の實際 地理概念の整理

(1) 國語科に於て授けたる左記事項の復習整理

私 どものまぢ 山の上の見はらし 富士山 水のたび 奈良大佛 汽
車ノタビ 日本港 大阪東京見物 參宮日記の一節 近江八景 世界の
話名古屋等

(2) 校外教授にて觀察したる事項につきて整理

(3) 地圖の讀方書方につきて整理

(二) 教授上の注意

(1) 以上の復習は極めて大要に止め主として地圖の讀方書方並に各自の地方
より見たる方位の取り方に注意せしむべし

(2) 校外教授は各地方にて適當なるものを選定すべし

第一 大日本帝國

(一) 教授の要項

(1) 我が國の島々及び面積(日本地圖)

(イ) 五大島樺太朝鮮其の他の島々 (ロ) 長さ (ハ) 面積

(2) 我が國の位置

(イ) 東南と西北は海 (ロ) 太平洋を隔て、亞米利加合衆國 (ハ) 西北の海と露

西亞領 (ニ) 東支那海の西は清國 (ホ) 臺灣の南はフィリピン群島

(3) 氣候産物及び住民

(イ) 氣候溫和 (ロ) 農産物、礦産物 (ハ) 大和民族 (ニ) 萬世一系の天皇

(4) 行政上の區劃

(イ) 三府四十三縣 (ロ) 道廳 (ハ) 總督府

(5) 地勢上の區分

(イ) 關東、奥羽、中部、近畿、中國地方 (ロ) 九州地方 (ハ) 四國地方 (ニ) 臺灣地方

(ホ) 北海道及び樺太地方 (ヘ) 朝鮮地方 (ト) 關東洲地方

(二) 教授上の注意

(1) 讀本卷六第十一課「日本と聯關して教授すべし」

(2) 氣候、産物、住民等につき特に優れたる點を説明すべし

(3) 隣國の位置並に距離の大要を授けて我が國との關係を悟らしむべし

第二 關東地方一

(一) 教授の要項

- (1) 位置(關東地方圖、日本全圖)
- (イ) 本州の東南部 (ロ) 西は中部地方 (ハ) 北は奥羽地方 (ニ) 東と南は太平洋
- (2) 地勢一
- (イ) 關東平野 (ロ) 房總半島 (ハ) 三浦半島
- (3) 地勢二
- (イ) 火山脈(箱根、榛名、男體、那須) (ロ) 温泉(箱根、伊香保)
- (4) 地勢三
- (イ) 利根川、江戸川、荒川、多摩川、那珂川 (ロ) 霞浦
- (5) 産業
- (イ) 關東平野の農産物 (ロ) 西北部の養蠶、生糸及び織物 (ハ) 海岸地方の漁業
- (6) 交通
- (イ) 鐵道(東京中心) (ロ) 航路(横濱中心)

(7) 行政上の區分

(二) 教授上の注意

- (1) 地勢産業は之を一團として圓周的に取扱ふべし(以下之に同じ)
- (2) 交通機關は大略を授け置き、關東地方(二)を終りたる後更に之を詳しく教授すべし(以下之に同じ)
- (3) 略地圖を描かして確實なる記憶を得しむべし

第三 關東地方二

(一) 教授の要項

- (1) 東京府(關東地方、府縣別地圖)
- (イ) 位置 (ロ) 東京市位置、人口、官衙、學校、公園、商工業、交通、水道等 (ハ) 八王子(織物) (ニ) 伊豆七島と小笠原島(黄八丈、バナ)
- (2) 神奈川県
- (イ) 位置 (ロ) 横濱市(位置、人口、開港場、輸出入品) (ハ) 横須賀市(軍港、造船所) (ニ) 鎌倉 (ホ) 小田原

(3) 千葉縣

- (1) 位置 (ロ) 地勢(南部山岳、北部關東平野) (ハ) 千葉(縣廳) (ニ) 銚子 (ホ) 野田(醬油)

(4) 埼玉縣

- (1) 位置 (ロ) 地勢 (ハ) 浦和(縣廳) (ニ) 大宮(鐵道の要地) (ホ) 川越 (ヘ) 秩父(絹織物)

(5) 群馬縣

- (1) 位置 (ロ) 地勢(山多く、東南部平野) (ハ) 前橋市(縣廳) (ニ) 桐生(絹織物) (ホ) 高崎市(鐵道の要地)

(6) 栃木縣

- (1) 位置 (ロ) 地勢(西北部山岳、東南部平野) (ハ) 宇都宮市(縣廳、第十四師團司令部) (ニ) 日光(東照宮景色) (ホ) 足尾(銅) (ヘ) 足利(絹織物)

(7) 茨城縣

- (1) 位置 (ロ) 地勢(北部山地、南部平野) (ハ) 水戸市(縣廳、公園)

(二) 教授上の注意

- (1) 總括復習を行ひ略地圖を描かしむべし
- (2) 當地方の交通機關の最もよく發達せる理由を説明すべし
- (3) 貿易港としての横濱の位置を説明すべし

第四 奥羽地方一

(一) 教授の要項

(1) 位置(奥羽地方地圖)

- (1) 本州の東北部、關東地方の北 (ロ) 東、太平洋 (ハ) 西、日本海 (ニ) 北、津輕海峽を隔て、北海道本島

(2) 地勢一

- (1) 奥羽山脈(中央、磐梯山、岩手山) (ロ) 阿武隈、北上山脈(奥羽山脈の東) (ハ) 鳥海山脈(奥羽山脈の西、月山、鳥海山、岩木山) (ニ) 河流と平野(阿武隈川と其の平野、北上川と其の平野、阿賀川、最上川、御物川、能代川と其の平野)

(3) 地勢二

- (4) 産業
 - (イ) 下北、津輕兩半島と陸奥港
 - (ロ) 牡鹿半島と仙臺灣
 - (ハ) 男鹿半島と八郎潟

- (イ) 平野と米
- (ロ) 原野の牧畜
- (ハ) 阿武隈川流域の養蠶
- (ニ) 能代川流域の林産、鑛産

(5) 交通

- (イ) 鐵道(東北線、常盤線、岩越線、奥羽線)
- (ロ) 航路

(6) 行政上の區別

(二) 教授上の注意

- (1) 海上交通の不便なる理由を了解せしむべし
- (2) 氣候及び住民の多少と農業との關係を知らしむべし

第五 奥羽地方二

(一) 教授の要項

- (1) 福島縣(奥羽地方府縣別地圖、以下同じ)
 - (イ) 位置
 - (ロ) 地勢
 - (ハ) 福島市(縣廳附近に羽二重)
 - (ニ) 若松市(漆器)
 - (ホ) 産物(石)

炭

(2) 宮城縣

- (イ) 位置
- (ロ) 仙臺市(縣廳、奥羽第一の都會、第二師團司令部、仙臺平、埋木細工)

(ハ) 松島

(3) 岩手縣

- (イ) 位置
- (ロ) 盛岡市(縣廳、馬市)
- (ハ) 釜石(鐵山)

(4) 青森縣

- (イ) 位置
- (ロ) 地勢
- (ハ) 青森市(縣廳、開港場、北海道との連絡)
- (ニ) 大湊(海軍要港)
- (ホ) 弘前市(第八師團司令部附近に林檎)

(5) 秋田縣

- (イ) 位置
- (ロ) 地勢
- (ハ) 秋田市(縣廳)
- (ニ) 能代(木材の集散地)
- (ホ) 小坂(銀、銅)

(6) 山形縣

- (イ) 位置
- (ロ) 地勢
- (ハ) 山形市(縣廳)
- (ニ) 米澤市(絹織物)
- (ホ) 酒田港

(二) 教授上の注意

- (1) 總括復習を行ひ略地圖を描かしむべし
- (2) 福島は奥羽の咽喉にして物貨集散の地として繁盛なること、青森は北海道樺太の開発につれ益々重要な位置にあることを知らしむべし

第六 中部地方一

(一) 教授の要項

(1) 位置

- (イ) 略、本州の中部 (ロ) 東奥羽地方、關東地方 (ハ) 西近畿地方 (ニ) 南と北海

(2) 地勢一

- (イ) 飛騨山脈(御岳、乗鞍岳) (ロ) 木曾山脈 (ハ) 赤石山脈 (ニ) 富士火山脈(富士山)
- (ホ) 淺間山(東境) (ヘ) 白山(西部)

(3) 地勢二

- (イ) 木曾川と美濃平野 (ロ) 天龍川、大井川、富士川 (ハ) 信濃川と越後平野
- (ニ) 神通川、九頭龍川

(4) 地勢三

- (イ) 伊豆半島(相模灣、駿河灣) (ロ) 知多半島(三河灣、伊勢灣) (ハ) 能登半島(富山灣、佐渡灣、若狭灣)

(5) 産業

- (イ) 濃美、越後兩平野の米 (ロ) 信濃地方の蠶業、木材 (ハ) 伊豆近海の漁業

(6) 交通

- (イ) 鐵道(東海道線、中央線、信越線、北陸線) (ロ) 航路

(7) 行政上の區分

(二) 教授上の注意

- (1) 我が國の中央、幅最も廣き地域にして地勢上多くの斜面に分れ産業交通上各特徴を有することを知らしむべし
- (2) 日本海方面と太平洋方面との海岸交通等につき比較對照せしむべし
- (3) 本地方の氣候特に日本海方面の冬季積雪深きことを挿畫につき十分に説明すべし

第七 中部地方二

(一) 教授の要項

(1) 静岡縣

- (イ) 位置 (ロ) 静岡市(縣廳、漆器) (ハ) 濱松 (ニ) 清水港(開港場、茶の輸出) (ホ) 熱海(溫泉) (ヘ) 産物(紙、茶)

(2) 山梨縣

- (イ) 位置 (ロ) 地勢 (ハ) 甲府市(縣廳、生糸、水晶細工、附近に葡萄) (ニ) 郡内絹織物(ホ) 中央線(笹子峠)

(3) 愛知縣

- (イ) 位置 (ロ) 地勢 (ハ) 名古屋市(縣廳、名古屋港、名古屋城、第三師團司令部、熱田神宮、商工業、織物) (ニ) 瀬戸(陶器) (ホ) 豊橋市(第十五師團司令部) (ヘ) 産物(酒、醬油)

(4) 岐阜縣

- (イ) 位置 (ロ) 岐阜市(縣廳、鶉飼、紙) (ハ) 大垣(附關原、養老瀧) (ニ) 多治見(陶器) (ホ) 高山

(5) 長野縣

- (イ) 位置 (ロ) 地勢 (ハ) 長野市(縣廳、善光寺) (ニ) 松本市(繭種紙の集散地) (ホ) 上田 (ヘ) 諏訪湖附近(製糸業)

(6) 新潟縣

- (イ) 位置 (ロ) 新潟市(縣廳、開港場) (ハ) 長岡市(石油の集散地) (ニ) 直江津(交通の要地) (ホ) 高田(第十三師團司令部) (ヘ) 相川(金北山金坑)

(7) 富山縣

- (イ) 位置 (ロ) 地勢(北は平野、富山灣、三方山、立山) (ハ) 富山市(縣廳、賣藥業) (ニ) 高岡市(銅器、漆器) (ホ) 伏木港(開港場)

(8) 石川縣

- (イ) 位置 (ロ) 地勢 (ハ) 金澤市(縣廳、公園、第九師團司令部、日本海方面第一の都會、羽二重、陶器) (ニ) 輪島(漆器) (ホ) 七尾港(開港場)

(9) 福井縣

- (イ) 位置 (ロ) 福井市(縣廳、羽二重、藤島神社) (ハ) 敦賀港(開港場、日本海方面の良

港、浦潮斯徳との航通

(二) 教授上の注意

- (1) 總括復習を行ひ略地圖を描かしむべし
- (2) 濃美平野と名古屋との關係を知らしめ都會發達の理由を明にすべし
- (3) 長野縣は山國なるにも拘らず産業よく發達し殊に養蠶業、製糸業は我が國第一なる點を明ならしむべし
- (4) 敦賀港は浦潮斯徳を経て歐洲に向ふ重要なる地點なることに注意せしむべし

第八 近畿地方一

(一) 教授の要項

(1) 位置(日本全圖、近畿地方圖)

- (イ) 中部地方の西南 (ロ) 西北部は中國地方北日本海、南内海 (ハ) 東南部紀伊半島(東伊勢海、西大阪灣)

(2) 地勢一

(イ) 西北部の山地(中國山脈) (ロ) 東南部の山地(紀伊山脈、山上岳、大臺原山)

(ハ) 中央部の低地(東北部近江平野、西南部大阪平野、中間京都奈良平野、東部伊勢平野)

(3) 地勢二

(イ) 淡路島 (ロ) 播磨灘 (ハ) 明石海峽(須磨、明石の風景) (ニ) 紀淡海峽(防禦砲臺)

(ホ) 鳴門海峽 (ヘ) 潮岬(東北熊野灘) (ト) 志摩半島(伊勢海) (チ) 宮津、舞鶴二灣

(4) 産業

(イ) 平野(米、菜種) (ロ) 山地(木材、炭) (ハ) 近海(鰯、鯨、鰒、真珠)

(5) 交通

(イ) 鐵道(東海道線、關西線、山陽線) (ロ) 航路(神戸、大阪中心)

(6) 行政上の區分

(二) 教授上の注意

- (1) 近畿地方は大略三つの斜面に分れ居ること、山岳高峻ならぬことに注意せしむべし

- (2) 平野は各斜面に發達し交通上至便の位置にあることを知らしむべし
- (3) 一般に産業能く發達し大阪平野は土地の利用に就て本邦中有名なる地方なることを知らしむべし

二 近畿地方

第九 近畿地方二

(一) 教授の要項

(1) 滋賀縣

- (イ) 位置 (ロ) 地勢 四方山脈、比叡山、中央琵琶湖 (ハ) 風景、疏水、水産物 (ニ) 大津市(縣廳、三井寺) (ホ) 彦根 (ヘ) 米原(鐵道要地) (ト) 長濱(縮緬)

(2) 京都府

- (イ) 位置 (ロ) 地勢 (ハ) 京都市(府廳、京都御所、平安神宮、本願寺、京都帝國大學、第十六師團司令部、織物、陶器、滋器) (ニ) 宇治(茶) (ホ) 舞鶴(軍港) (ヘ) 宮津(天の橋立)

(3) 奈良縣

- (イ) 位置 (ロ) 奈良市(縣廳、奈良朝の帝都、春日神社、東大寺、正倉院、帝室博物館)
- (ハ) 橿原神宮 (ニ) 法隆寺 (ホ) 吉野

三重縣

- (イ) 位置 (ロ) 津市(縣廳) (ハ) 宇治山田市(神宮) (ニ) 四日市市(開港場) (ホ) 桑名米の取引

(5) 和歌山縣

- (イ) 位置 (ロ) 和歌山市(縣廳、和歌の浦、綿フランネル) (ハ) 黒江(漆器) (ニ) 高野山(金剛峯寺) (ホ) 新宮(木材の集散地) (ヘ) 那智瀧 (ト) 産物(蜜柑)

(6) 大阪府

- (イ) 位置 (ロ) 地勢 (ハ) 大阪市(府廳、商工業、大阪城、第四師團司令部、開港場) (ニ) 堺市(刃物)

(7) 兵庫縣

- (イ) 位置 (ロ) 地勢 (ハ) 神戸市(縣廳、開港場、輸出品銅、綿絲輸入品綿、鐵材、鐵製品、工業、造船所、湊川神社) (ニ) 灘(酒) (ホ) 姫路市(第十師團司令部) (ヘ) 生野(銀、銅、赤穂鹽)

(二) 教授上の注意

- (1) 總括復習を行ひ略地圖を描かしむべし
- (2) 滋賀縣は農作物其の他の産物比較的多きこと、縣民の勤勉なることとに注意せしむべし
- (3) 京都府は我が國の舊都にして美術工藝品の發達殊に著しき點に注意せしむべし
- (4) 奈良縣は神武天皇以來帝都の地なりしことを説示すべし
- (5) 三重縣は神宮所在地として特に注意せしむべし
- (6) 和歌山縣の木材、蜜柑、綿、フランネル等の産物につき特に注意せしむべし
- (7) 大阪は商工業上我が國の中心たることを會得せしむべし
- (8) 開港場としての神戸港の位置を説示すべし

第十 中國地方一

(一) 教授の要項

- (1) 位置(日本全圖、中國地方圖)
- (イ) 近畿地方の西 (ロ) 南瀬戸内海(四國) (ハ) 北、日本海 (ニ) 西南端、下關海峡、九

州)

(2) 地勢一

- (イ) 中國山脈(山陰、山陽) (ロ) 平野と川(江川、旭川、太田川)

(3) 地勢二

- (イ) 瀬戸内海出入多し、島嶼多し、景色よし (ロ) 日本海岸(出入少し、島根半島、宍道湖、中海)

(4) 産業

- (イ) 山地(砂鐵、銅、牧牛) (ロ) 平野(米) (ハ) 沿海(漁業) (ニ) 瀬戸内海岸(鹽)

(5) 交通

- (イ) 瀬戸内海岸(便) (ロ) 日本海岸(不便)

(6) 行政上の區分

(二) 教授上の注意

- (1) 中國地方の山河の特徴に注意せしむべし
- (2) 瀬戸内海方面と日本海方面との異同に注意せしむべし

(3) 瀬戸内海の風光利用につき語るべし

第十一 中國地方二

(一) 教授の要項

(1) 岡山縣

(イ) 位置 (ロ) 地勢 (ハ) 岡山市縣廳、第十七師團司令部、後樂園 (ニ) 津山(雲齋織)

(ホ) 産物(麥、稗、真田、花筵、鹽)

(2) 廣島縣

(イ) 位置 (ロ) 地勢 (ハ) 廣島市縣廳、中國第一の都會、第五師團司令部 (ニ) 宇品

港 (ホ) 吳市(軍港、造船所、製鋼所) (ヘ) 嚴島(風景) (ト) 尾道市(壘表)

(3) 山口縣

(イ) 位置 (ロ) 地勢 (ハ) 山口(縣廳) (ニ) 三田尻(鹽) (ホ) 下關市(瀬戸内海の關門、開

港場) (ヘ) 萩

(4) 島根縣

(イ) 位置 (ロ) 地勢 (ハ) 松江市(縣廳) (ニ) 杵築町(出雲大社) (ホ) 濱田港(開港場)

(ヘ) 隱岐(鯛)

(5) 鳥取縣

(イ) 位置 (ロ) 地勢 (ハ) 鳥取市(縣廳) (ニ) 米子 (ホ) 境港(開港場)

(二) 教授上の注意

(1) 岡山縣の花筵、麥稗、真田の、有名なる産物なることを知らしむべし

(2) 廣島縣は軍事上重要な地點なることを知らしむべし

(3) 下關は軍事上交通上極めて重要な地點なることを知らしむべし

(4) 出雲大社のことは歴史と連絡して適當に説示すべし

第六節 理科教授

一 本科教授の方針

本科教授の方針に就ては、小學校令施行規則第七條第一項に左の如く規定してある。

理科ハ通常ノ天然物及自然ノ現象ニ關スル知識ノ一斑ヲ得シメ其ノ相互及人

生ニ對スル關係ノ大要ヲ理會セシメ兼テ觀察ヲ精密ニシ自然ヲ愛スルノ心ヲ養フヲ以テ要旨トス

此の要旨を取纏めて見ると、大體左の三項目となるのである。即ち其の第一は自然を理解すること、第二は自然を利用すること、第三は心情を修練することはである。今左に少しく之が解釋を試みよう。

(1) 自然の理解 本科教授の第一目的は通常の天然物並に自然現象の真相實際につきて、明瞭確實に之を領解せしめるにあるのである。これは吾人人類が此の自然界に生存し、自然界の支配を受け、自然界を利用するといふ點から當然要求せらるゝ事項なのであつて、若しも此等の知識が缺乏して居たならば、到底完全なる生活を營むことは出来ないのである。文明國民の生活程度が高いのに反して、野蠻蒙昧の人民が憐れなる生活を營むのも、畢竟此等の知識の豊富なると否とに關係するのである。夫故に小學校の教育に於ては是非とも此の要件を充たし、兒童をして愉快なる幸福多き生活をなさしむる様、其の素地を作り置かねばならぬのである。

(2) 自然の利用 本科教授の第一目的は前既に述べた通りであるが、それは結局此の第二の目的即ち自然の利用といふことに到達する必然の順序階段として肝要なのであつて、理科教授の主要目的は寧ろ此の自然界の利用といふことにあるのである。故に天然物及び自然の現象を理解せしめるにも、此等の事項が吾人の人生生活の上に如何程の關係があり、また如何程まで之を利用するかといふことを知らしめるのが本科教授上最も大切なのである。然るに従來の教授は單に自然の事物を領解せしめることのみ而努力し、之を人生生活の上に利用せしめるといふことに就ては甚だ用意が行届いて居なかつたのである。随つて従來の理科教授は其の効果が甚だ薄く、吾人人生の實際生活とは殆ど没交渉の姿であつたのである。それ故に今後の理科教授に於ては、人生に對する利用厚生といふことを第一の基礎とし、之に向つて全力を注ぐ様の方針を採らねばならぬと信するのである。

(3) 精神修養 本科教授の第三の目的は、觀察を精密にし自然を愛する心を養ふといふことであつて、上來述べた實質的方面の目的を達する傍、同時に修養せら

るべき形式的方面の修練なのである。夫故に理科教授に於ては、常に實驗觀察といふことに重きをおき、精密に事物を觀察する修練を行ふと同時に、成るべく自然に接觸して自然物を愛好する念を修養するといふことが必要なのである。随つて從來往々にして見る所の教科書を讀解せしめ、原理原則を學術的に暗誦せしめて、何等の實物實驗にも親炙せしめない理科教授は極力之を排斥するやうにせねばならぬのである。

二 本科教授の材料

(1) 教科書の内容 本學年使用の教科書は、教則第七條中に示されたる尋常小學校ニ於テハ植物、動物、礦物及自然ノ現象ニツキ主トシテ、兒童ノ目撃シ得ル事項ヲ授ケ特ニ重要ナル植物、動物、礦物ノ名稱、形狀、効用及發育ノ大要ヲ知ラシメ又通常ノ物理化學上ノ現象及人身生理ノ初步ヲ授クベシとあるに依つて教材を選択せられてあるのである。而して植物動物は主として東京附近に普通なるもの、中より選擇してあるから、各地方に於ては適宜に教材の取捨變更をなすべきことは教科書凡例の第三に於て示されてある通りである。物理化學に關

本科教授
の材料
教科書の
内容

する材料は、土地の情況によつて餘り取捨變更する必要はないけれども、交通の便否、都鄙の區別等に依つて多少斟酌すべきこともあるといふは是れ亦教科書凡例中に示されてある所である。尙此等の材料は成るべく兒童の理解し易い、且つ最も普通なる代表的材料を選び、難易の順序を考へ、季節其の他の事をも斟酌して排列してあるのである。

教授時數は約八十時間と豫定し、其中より復習總括其の他の爲に要すべき時間を減じ、約七十二時間を以て教授を終るべき様教材を配當してある。併しながら右は大體の標準を示された者で、固より之に拘泥すべきものでないといふことは、教科書の凡例中に明なる所である。

(2) 地方的 理科教授の目的が前にも述べた通り、人生生活の實際問題を中心とし、之に關して自然物並に自然現象の利用厚生を教ふるものであるとすれば、其の教材の選擇に關しても多大の注意を要することは今更言新しく論ずるまでもないことである。今日は既に理科の國定教科書が供給せられてあるけれども、此の教科書は其の凡例中にも示してある通り、専ら東京地方を中心として編

地方的

纂せられてあるのであるから、實際の教授に際しては各地方に依つて多少の取舍選擇を要するは勿論、各地方郷土の氣候風物特に産業等を考察して、最も實際の生活に適切なる材料を選択するやうにせねばならぬのである。是れ即ち本項に於て大に地方的材料の利用活用を絶叫する所以である。

(3) 實用的 前述の如く地方的材料を選択して利用厚生の途を講ずるには、其の教授の要項を學問的に排列せずして、専ら實用的方面より觀察して其の要項を排列することが必要なのである。これを例すれば動植、礦物の如き自然物を教ふるにしても、其の形狀習性、効用等が成るべく實際の場合に近いやう、成るべく實地の場合に間に合ふやう、即ち農業、工業、水産業等の如き實地の業務に直に利用應用の出来る様に教授することが極めて必要なのである。其の他自然現象にしても、成るべく實地の場合に利用應用の出来る様に、之を取扱ふことが極めて必要なのである。

教授の用具

(4) 教授の要具

(イ) 實物、標本、圖畫 教則に「理科ヲ授クルニハ成ルベク實地ノ觀察ニ基キ若ハ

標本模型圖畫等ヲ示シ云々」とあつて、實物實地に就きて之が觀察をなさしめることは本科教授の原則である。實に理科に關する確實なる知識は、到底書物や口舌の上ばかりで得らるゝものでなく、必ずや之が實地の觀察に俟たなければならぬのである。夫故に各學校に於ては教授の都度之を兒童に持參せしむるか、或は學校にて給與するか、何れの方法を採るにしても成るべく兒童全體に往き渡る様多數に實物を用意して、十分觀察の出来る様にすることが極めて必要なのである。今國定教科書に採用せられてある理科教材を通覽するに、左程實物を得るに困難なものはない。或は教師の努力によりて十分に採集することの出来るものあり、或は教授の前に兒童に命じて置けば、十分に整ふものも多いのである。若しも此等の實物が得られない場合とか、或は微細の點を説明するに困難なる場合とかには、標本圖畫等を使用するのであるが、是は頗る稀にすべきこととて、標本圖畫は到底實物に如かないといふことを承知しておかねばならぬのである。

(ロ) 器械及び實驗用具 自然物に對して實地の觀察が必要であると同樣に、自

然現象に對しても成るべく兒童の實驗に訴へて確實なる知識を得しむることが必要である。由來我が邦人が一般に理科の知識に乏しく、發明工夫の力に缺けて居るのは、實地に器械器具の使用に慣れないのと、實驗の經驗に乏しいとの結果に外ならぬのであるから、今後は大に此の方面に力を用ひねばならぬのであるが、小學校に於て使用する器械器具類は、決して高價な贅澤なものを要せぬ、成るべく簡易なものを成るべく教師の手に於て製作して、兒童全部に實驗に供せしむるやう準備し工夫することが必要である。而して此等の用具中特に實驗皿、ナイフ、ピンセット、火酒燈、玻璃管、フラスコ、集氣瓶等は是非とも備付けて置かねばならぬのである。

(ハ) 教具の保存及び取扱 以上の教具は一旦實驗觀察を終つた後も成るべく兒童の見易き場所に順序よく排列し、一定の監督方法を設けて兒童の自由なる使用觀察を許すがよく、又動植物標本の腐敗を豫防し、器械の錆を防ぎ損所を修理し、藥品の保存を鄭重にする等些末の點にまで注意を怠つてはならぬのである。

本科教授上の注意

三 本科教授上の注意

- (イ) 第四學年以下の讀本中にある理科的材料との關係を明にし以て本科教授の出發點となすべし。
- (ロ) 校内適當の場處に相當の設備をなし、雞小鳥、兎、羊、鯉、金魚、鮒等を飼養せしめ、以て動物愛護の念を養成し、飼養法を會得せしめ、兼て此等小動物の習性を觀察せしむべし。
- (ハ) 學校園の一部に理科教材園を設け、兒童をして之が手入をなさしめ、以て植物愛護の念を養ひ其の栽培法を理解せしめ、兼て此等植物の形態生態を觀察せしむべし。
- (ニ) 材料の種類によりては、教室内若しくは學校内のみにては完全なる觀察實驗をなさしめ得ざるものあり、かゝる場合には便宜生徒を教室外若しくは校外に引率して適當なる實驗觀察をなさしむべし。
- (ホ) 實物標本簡易なる器械等は成るべく教師兒童努力の下に之を採取し之を製作すべし。

- (へ) 活用應用は何れの學科を問はず必要なれども、本科に於ては特に此の方面に重きを置きて教授すべし。
- (ト) 本科の教授によりて世間普通に信ぜられつゝある種々の迷信を打破すべし。
- (チ) 教授の要項を筆記せしめ、且つ時々筆記帳の檢閲をなすべし。
- (リ) 教授事項を前以て提示し、觀察の要點を豫め兒童に指示すべし。
- (ヌ) 觀察せしむべき實物は出來得る限り全部の兒童に之を配布すべし。
- (ル) 實驗は成るべく總べての兒童に之を行はしめ、尙家庭に於て出來得るものは其の方法を指示すべし。
- (ヲ) 生物的材料を取扱ふには特に左の諸點に注意すべし。
 - (a) 形態 (b) 生活法 (c) 住所 (d) 外物との關係 (e) 生活法と住所及び氣候との關係 (f) 各部分相互の關係 (g) 生物相互の關係 (h) 形態構造と人生との關係 (i) 習性又は性質と人生との關係
- (ヰ) 礦物的材料を取扱ふには特に左の點に注意すべし。
 - (a) 構造と成因との關係 (b) 岩石と生物並に自然現象との關係 (c) 構造及び性質

理科教授の實際
の整理
の整理

四

理科教授の實際

理科概念の整理

(一) 教授の要項

(1) 國語科に於て授けたる左記事項の復習整理

雞、木の葉、牛と馬、竹、螢、蛙、柿と栗、穀物、藁、蝶、雁、取入れ、豆の一族等

(2) 郊外教授にて觀察したる事項につきて整理

(3) 實驗觀察の方法につきて指示

(二) 教授上の注意

- (1) 以上の復習は極めて大要に止め主として實驗觀察の方法につきて注意せしむべし
- (2) 郊外教授は各地にて適當なるものを選定すべし

と人生との關係

(カ) 理科學的材料を取扱ふには特に左の點に注意すべし。

(a) 原因結果の關係 (b) 利用法 (c) 避難法

第一課 油菜

(一) 教授の要項

- (1) 根
 - (イ) 主根と支根 (ロ) 水及び養分を吸取り莖を支ふ
- (2) 莖
 - (イ) 高さ(三四尺) (ロ) 枝の互生
- (3) 葉
 - (イ) 下端に密生 (ロ) 枝の出づる所に一枚 (ハ) 多くの脈
- (4) 花
 - (イ) 萼四枚 (ロ) 花瓣四枚 (ハ) 雄蕊四本長く、二本短し、葯花粉 (ニ) 雌蕊一本、子房種子
- (5) 果實
 - (イ) 花の底に蜜 (ロ) 蝶蜂花粉を雌蕊の上端に附着 (ハ) 子房成長
- (6) 効用

第二課 もんしろ蝶

(一) 教授の要項

(1) 形態

- (イ) 體、胸、腹の三部 (ロ) 翅四枚、胸の上側より左右に二枚 (ハ) 脚六本、胸の下側より左右に三本
- (ニ) 眼(二複眼) (ホ) 觸角(二) (ヘ) 口(細長き管、蜜を吸ふ)

(2) 習性

- (イ) 幼虫(菜の葉を食ふ)

(二) 教授上の注意

- (1) 鱗粉を擴大鏡にて觀察せしむ變態の各時期を標本にて示す成虫を採集して兒童とともに標本を作るべし
- (2) 教室にて教授せし後學校園若くは校外等にて實地に指導して觀察せしむべし

第三課 蛙

(一) 教授の要項

- (1) 出現
 - (イ) 冬は地中にかくる (ロ) 春出て來る (ハ) 卵を水中に産む
- (2) 卵
 - (イ) 色黒く球形 (ロ) 寒天様のものて包まる
- (3) 變態
 - (イ) 日光に温められて孵化 (ロ) ちたまじやくし (ハ) 四本の脚次第に尾を失ふ
- (4) 形態

- (1) 後脚は前脚より長し、みづかき (ロ) 口は大きく舌は前より後に向ふ
- (5) 生活状態
 - (イ) 虫を捕り食ふ (ロ) 益虫

(二) 教授上の注意

- (1) ちたまじやくしを學校に飼養し置きて變態の順序を觀察せしむべし

第四課 つつじの花

(一) 教授の要項

- (1) 形態
 - (イ) 萼(五) (ロ) 花瓣(五片は相合す) (ハ) 雄蕊(十本又は五本、葯) (ニ) 雌蕊(一本)
- (2) 生態
 - (イ) 萼、花瓣(雄蕊雌蕊を保護す) (ロ) 蜜と蝶蜂

(二) 教授上の注意

- (1) 出來得るだけ多數の花を用意して各種異同の點を比較せしむべし
- (2) 普通つゝじの花は五本の雄蕊あり、雄蕊の十本あるは琉球つゝじ又はもち

つゝじなり、而してもちつゝじは萼長く琉球つゝじは萼短し

第五課 松

(一) 教授の要項

(1) 花、果實

- (イ) 雄花雌花、萼花瓣なし (ロ) 雄花(新芽の下部花粉多し) (ハ) 雌花(新芽の上部まつかさ)
- (ニ) 花粉(風に送られ雌花に着く) (ホ) 種子(一枚の翅)

(2) 葉

- (イ) 針の如し (ロ) 常に綠色 (ハ) 二本づゝ集る

(3) 幹

- (イ) 皮(外部) (ロ) 木材(内部、年輪、建築、其の他の工事)

(二) 教授上の注意

- (1) 油菜つゝじ等の花と松の花とを比較せしむべし
- (2) 赤松と黒松との異同を比較せしむべし

第六課 竹

(一) 教授の要項

(1) 幹

- (イ) 節 (ロ) 中空 (ハ) 年輪なし

(2) 葉

- (イ) 節に着く (ロ) 本は枝を包む (ハ) 並行脈

(3) 地下莖(多くの節)

(4) 根莖の下部及び地下の莖の節より出づ

(5) 筍

- (イ) 地下莖の節より出づ (ロ) 竹皮で包まる

(6) 繁殖

- (イ) 筍より繁殖 (ロ) 花は稀

(7) 効用(諸種の器具)

(二) 教授上の注意

- (1) 松の木材と比較して幹に年輪なきことを知らしむべし

(2) 竹の結實は竹をして老衰せしむることを知らしむべし

第七課 麥

(一) 教授の要項

(1) 形態

- (イ) 莖(細長き管、所々に節) (ロ) 根(鬚根) (ハ) 葉(細長、本は莖を包む) (ニ) 花(莖の上)
- 端總の形、二枚の苞、雄蕊三本、雌蕊一本 (ホ) 果實

(2) 効用

- (イ) 食品 (ロ) 麥稈真田

(3) 耕作

- (イ) 冬の初に蒔く (ロ) 夏の初に刈取る

(二) 教授上の注意

- (1) 各種類の麥の異同を比較せしむべし
- (2) 主なる産地並に輸入につき附説すべし
- (3) 麥奴及び麥稈真田の標本を用意すべし

第八課 たんぼぼ

(一) 教授の要項

(1) 形態

- (イ) 根(深く地中に入る、多年の間生存) (ロ) 葉(短き莖の周圍に密生) (ハ) 花(黄色)
- 又は白色、長き柄の上端、頭狀花 (ニ) 果實(毛、風に吹かれて飛散)

(二) 教授上の注意

- (1) 果實に毛を具ふことは松の種子と比較せしむべし
- (2) 根、葉花をつけたる者、果實をつけたる者を準備すべし

第九課 いんげん豆

(一) 教授の要項

(1) 莖

- (イ) 蔓 (ロ) 左巻

(2) 葉

- (イ) 長き柄 (ロ) 三枚づゝに分る

燕

(3) 花

- (イ) 形(蝶) (ロ) 萼先五片に分る (ハ) 花瓣五枚、上の一枚大 (ニ) 雄蕊十本、九本、相合、一本離る (ホ) 雌蕊(一本)

(4) 果實

- (イ) 莢 (ロ) 數個の大なる種子

(二) 教授上の注意

- (1) ふぢまめをいんげん豆と混同する地方あり注意すべし
- (2) 油菜、つゝじ等の花といんげん豆の花とを比較對照せしむべし

第十課 燕

(一) 教授の要項

(1) 形態

- (イ) 背黒く腹白し (ロ) 翼長し (ハ) 脚(小趾四本)

(2) 習性

- (イ) 春來り秋去る (ロ) 飛ぶこと速 (ハ) 多く虫を捕ふ (ニ) 保護鳥

栗の花

(二) 教授上の注意

- (1) 法令にて捕獲を禁止せらるゝ理由を明に領解せしむべし
- (2) 教授の數日前に豫告をなして習性の觀察をなさしむべし

第十一課 栗の花

(一) 教授の要項

(1) 幹

- (イ) 年輪 (ロ) 堅き木材

(2) 葉(互ひ違に出づ)

(3) 花

- (イ) 多く集りて長さ穂 (ロ) 萼花瓣なし (ハ) 雄花雄蕊穂の大部分 (ニ) 雌花穂の本三箇ばかりづゝ集る(苞) (ホ) 花粉(虫に運ばる)

(二) 教授上の注意

- (1) 實地觀察をなさしめて花の香を發すること虫の集合することを知らしむべし

(2) 花を松麥等と比較せしむべし

第十二課 花菖蒲

(一) 教授の要項

(1) 地下莖

(2) 葉

(イ) 地下莖より出づる者多し (ロ) 表裏の別なし

(3) 花

(イ) 緑色の苞 (ロ) 萼三枚 (ハ) 花瓣三枚 (ニ) 雄蕊三本 (ホ) 雌蕊一本

(二) 教授上の注意

(1) かきつばた、あやめと異同の點を比較せしむべし

第十三課 夏至冬至

(一) 教授の要項

(1) 夏至

(イ) 六月二十二日 (ロ) 晝最も長く夜最も短し (ハ) 太陽の出入最も北にかた

よる (ニ) 正午太陽の位置最も高し

(2) 冬至

(イ) 十二月二十二日又は二十三日 (ロ) 晝最も短く夜最も長し (ハ) 太陽の出

入最も南にかたよる (ニ) 正午太陽の位置最も低し

(二) 教授上の注意

(1) 冬至の日は其の年の曆によるべし

(2) 日の出日の入りの方角は時々兒童自身に觀察せしめ且つその時刻の常に變ずることに注意せしむべし

(3) 校内適宜の場所に長さ數尺の棒を立て正午に於ける其の影の長さを時々實測せしむる様にすべし

第十四課 螢

(一) 教授の要項

(1) 形態

(イ) 頭と翅とは黒く胸部の背面紅色 (ロ) 腹部の下面黄色 (ハ) 脚(六本) (ニ) 翅

(前翅狭く厚し、後翅廣く薄し、飛ぶ用)

(2) 習性

(イ) 夜、光を放ちて水邊を飛ぶ (ロ) 光にて友を呼び敵をおどす

(3) 昆虫

(イ) 六本の脚 (ロ) 四枚の翅 (ハ) 頭、胸、腹

(二) 教授上の注意

(1) 各自實物を持ち來らしめ尙擴大圖の準備をなすべし

第十五課 馬

(一) 教授の要項

(1) 形狀

(イ) 全身に毛 (ロ) 頭にたてがみ (ハ) 尾の毛長し (ニ) 脚一本の趾、蹄、跟は膝の如く見ゆ

(2) 習性(主に草を食す)

(3) 用途

(二) 教授上の注意

(1) 教授前豫告をなして形狀習性の觀察をなさしむべし

第十六課 牛

(一) 教授の要項

(1) 形狀

(イ) 全身に短き毛 (ロ) 脚(趾、二本蹄) (ハ) 額に一對の角 (ニ) 上顎に前齒なし

(2) 習性

(イ) 主に草を食す (ロ) 嚙直す

(3) 用途

(イ) 力役 (ロ) 肉と乳は食用 (ハ) 皮、骨、角は器具

(二) 教授上の注意

(1) 牛の形狀習性は各自に觀察せしむべし、殊に其の靜に横たはりながら口を動かし居ることあるに注意せしむべし

(2) 前課の馬と比較して教授すべし

第十七課 池中の小動物

(一) 教授の要項

- (1) げんごらう
 - (イ) 昆虫 (ロ) 小さな魚等を食ふ (ハ) 幼虫は細長く翅なし
- (2) みづすまし
 - (イ) 小さな昆虫 (ロ) 水面を泳ぎ廻る
- (3) やご
 - (イ) とんぼの幼虫 (ロ) 小さな虫を食ふ
- (4) ぼうふり
 - (イ) 蚊の幼虫 (ロ) 體を屈伸して水中を運動す
- (5) みぢんこ
 - (イ) 一生水中に棲む (ロ) 魚の餌

(二) 教授上の注意

- (1) 教授後校外に引率して實地の觀察をなさしむべし
- (2) 實物擴大圖の準備をなすべし

第十八課 きんぎよも、うさくさ、蓮

(一) 教授の要項

- (1) きんぎよも
 - (イ) 莖細長し (ロ) 葉は細く分る
- (2) うさくさ
 - (イ) 楕圓形の植物 (ロ) 水底に固着せず
- (3) 蓮
 - (イ) 太き地下莖蓮根 (ロ) 葉と花とは長さ柄 (ハ) 花萼、花瓣、多くの雄蕊、花托、多くの雌蕊

(二) 教授上の注意

- (1) きんぎよもを得る能はざるときは、くろも、ふさも等を代用するもよし
- (2) 蓮の果實を有する花托は前年のものを用ふべし

(3) 實物擴大圖を用意すべし

第十九課 朝 顔

(一) 教授の要項

(1) 莖

(イ) 長き蔓 (ロ) 左巻

(2) 葉

(イ) 三つに裂く (ロ) 互ひ違ひに枝につく

(3) 花

(イ) 萼(五片) (ロ) 花瓣漏斗形 (ハ) 雄蕊(五本) (ニ) 雌蕊(一本)

(4) 果實

(イ) 内部(三室) (ロ) 各室に一二個の種子

(二) 教授上の注意

(1) 五六月頃種子を蒔きて校内適宜の場所に培養し置くべし

(2) この課は成るべく午前時間に教授すべし、已むを得ずして午後時間に

教授するときは其の朝兒童をして花の形狀を觀察せしめ置くべし

第二十課 稻

(一) 教授の要項

(1) 形態

(イ) 莖、葉、根略麥に同じ (ロ) 花形略麥に同じ、八九月頃開く、二枚の苞、雄蕊六本、雌蕊一本

(2) 耕作

(イ) 四五月頃苗代に種子を蒔く (ロ) 六月頃移植 (ハ) 秋刈取る

(二) 教授上の注意

(1) 稻の耕作に關する事項は時々郊外に引率して其の實況を觀察せしむべし

(2) 稻及び粳糯二種の果實、稻花の擴大圖の準備をなすべし

第二十一課 みどりらんか

(一) 教授の要項

(1) 形態

(イ) 蟬に似たる小さき緑色の昆虫 (ロ) 幼虫は親虫に似て翅なし

(2) 習性

(イ) 稻の莖葉より養分を吸ひ取る (ロ) 害虫

(3) 驅除法

(イ) 捕虫網で捕る (ロ) 水面に油をまきて拂ひ落す

(二) 教授上の注意

(1) うんかの各種標本及び擴大圖を用意すべし

(2) 驅除法に就きては特に注意して之を教授すべし

第二十二課 ずるむし

(一) 教授の要項

(1) 形態

(イ) 細長さ淡黄色の虫 (ロ) 蛾の幼虫

(2) 習性

(イ) 稻莖の中に棲む (ロ) 莖の内部を食ひて之を枯す (ハ) 普通年に二回發生

(3) 驅除法

(イ) 燈火にて蛾を誘ひ殺す (ロ) ずるむしの棲む莖を焼き棄つ (ハ) 卵を採り殺す

(二) 教授上の注意

(1) 白穂の抜き取り卵の驅除法は實地につき指導獎勵をなすべし

(2) ずるむしの實物標本、擴大圖を用意すべし

(3) 蝶と蛾の比較をなさしむべし

第二十三課 茄きうりの果實

(一) 教授の要項

(1) 茄の果實

(イ) 卵形 (ロ) へた(萼)の大きくなつたもの

(2) きうりの果實

(イ) 形細長し (ロ) 果實の光につきたる小片は萼

(3) 共通點

- (イ) 多肉水分を含む
- (ロ) 多肉の部分は果皮の厚くなれるもの
- (ハ) 數多の種子

(二) 教授上の注意

- (1) 茄の果實及びびきうりの果實は數片づゝに横斷して兒童に分ち與ふべし
- (2) 果皮の多肉となれることを教ふる時、朝顔の果實の薄き果皮と比較すべし

第二十四課 わらび

(一) 教授の要項

- (1) 形態
 - (イ) 細長き地下莖 (ロ) 葉(地下莖より出づ裏に胞子) (ハ) 花なし
- (2) 生態
 - (イ) 胞子地に落ちて繁殖す
- (3) 効用
 - (イ) 若葉は食用 (ロ) 地下莖より蕨粉
- (4) しだ類(ぜんまい、うらじろ、しのぶ等)

わらび

こほろぎ

(二) 教授上の注意

- (1) わらびの葉は一部分づゝ兒童に分ちて胞子のある場所を見しむべし
- (2) ぜんまい、うらじろ、しのぶ等の標本をも適宜に兒童に示すべし

第二十五課 こほろぎ

(一) 教授の要項

- (1) 形態
 - (イ) 黒褐色、太く肥ゆ
 - (ロ) 四枚の翅
 - (ハ) 脚(最後の二本長大)
 - (2) 習性
 - (イ) 雌(卵を産込む管)
 - (ロ) 雄(前翅を摩合せて鳴く)
- (二) 教授上の注意
- (1) こほろぎの實物及び擴大圖を準備し置くべし
 - (2) 習性と生殖上の關係を説明すべし

第二十六課 柿の果實

(一) 教授の要項

第二編 第二章 各科教授

柿の果實

栗の果實

(1) 形態

(イ) へた(萼)の大きくなりしもの (ロ) 果實(多肉) (ハ) 種子(胚と胚乳)

(2) 生態

(イ) 夏花を開き秋實を結ぶ (ロ) 初め澁く後甘し

(二) 教授上の注意

(1) 果實の實物、種子の擴大圖を準備すべし

(2) 形態と生態との關係につき特に注意して教授すべし

第二十七課 栗の果實

(一) 教授の要項

(1) いが

(イ) 苞の發育 (ロ) 中に二三個の果實

(2) 果實

(イ) 褐色の果皮 (ロ) 種子(子葉、莖)

(3) 害虫(しぎむし)

種子の散布

(二) 教授上の注意

(1) 栗の果實は第十一課栗の花と聯關して教授すべし

(2) 栗の種子は柿の種子と比較して教授すべし

第二十八課 種子の散布

(一) 教授の要項

(1) 風によりて散布

(イ) 翅(松、桐、もみぢ) (ロ) 毛(たんぼ)

(2) 動物の食用となりて散布

(イ) 葡萄、桃、柿 (ロ) 糞と共に散布(南天、ばら、さくら)

(3) 動物に附著して散布

(イ) ぬすびとはぎ、ゐのこづち、さんみづひき、にんじん

(4) 自ら種子を弾き散らすもの

(イ) ほうせんくわ、げんのしようこ

(二) 教授上の注意

松茸

- (1) 松、たんぼ、等の種子の散布に就ては簡單なる復習をなし適宜にその實物を示すべし
- (2) 新に教ふる事項は必ず實物によるべし、列記せる果實の中にて實物の得難きものは他物を代用するか若しくは全く省くべし
- (3) 校外教授の際種子の散布の著しきものを兒童に觀察せしむべし
- (4) 種子の散布法には未だ明確ならざるもの多きが故にその著しきもの、外は強ひて説明せざるを可とす

第二十九課 松茸

(一) 教授の要項

- (1) 形態
 - (イ) 笠と柄 (ロ) 笠の下面に黴(孢子) (ハ) 花なし
- (2) 生態
 - (イ) 椎中にある白き糸 (ロ) 赤松の附近の土
- (3) 菌類(椎茸、初茸、しめぢ等)

甘藷馬鈴薯

稻の收穫

(二) 教授上の注意

- (1) 松茸の得難きときは椎茸初茸等を代用して數ふべし
- (2) 孢子はわらびと比較して教授すべし

第三十課 甘藷、馬鈴薯

(一) 教授の要項

- (1) 形態
 - (イ) 甘藷根の肥えたるもの (ロ) 馬鈴薯地下莖の肥えたるもの
 - (2) 生態
 - (イ) 薯と養分 (ロ) 發芽の用意
- (二) 教授上の注意
- (1) 甘藷及び馬鈴薯は成るべく莖葉等の著きたるものを示すべし

第三十一課 稻の收穫

(一) 教授の要項

- (1) 果實

菊

- (1) 秋熟す (ロ) 二枚の苞 (ハ) 玄米
- (2) 收穫

- (イ) 籾の黄色になれる頃 (ロ) 籾を取る(稻扱) (ハ) 籾殻を取る(籾摺白)

- (二) 教授上の注意
- (1) 第二十課稻、第二十一課みどりうんか、第二十二課ずゐむしと關聯して教授すべし
- (2) 郊外教授をなして實地の觀察をなさしむべし

第三十二課 菊

- (一) 教授の要項

- (1) 形態

- (イ) 頭狀花 (ロ) 中心部の花(短き管、上端五片) (ハ) 周邊の花(花瓣大、下部管、上部舌の形)

- (2) 生態

- (イ) 多年生植物 (ロ) 培養と變種

紅葉落葉
木及び常綠

- (二) 教授上の注意

- (1) 本課の教授に用ふる菊には、頭狀花の中心部は管狀花より成り周邊は舌狀花より成れるものと、頭狀花の全部舌狀花より成れるものとの兩者あるを要す、なほ頭狀花の色及び大きさの異なるもの二三をも取揃ふべし
- (2) たんぼと比較して教授すべし
- (3) 盆栽若くは花園に菊を培養せしめ置けば興味一層深かるべし

第三十三課 紅葉落葉及び常綠木

- (一) 教授の要項

- (1) 紅葉

- (イ) もみぢ(紅色の液) (ロ) いてふ(黄色の液)

- (2) 落葉

- (イ) 秋の末 (ロ) 働を終る

- (3) 常綠木

- (イ) 冬も綠葉 (ロ) 厚く堅し

冬芽

(二) 教授上の注意

- (1) 椿、楓、公孫樹、無花果等の準備をなすべし
- (2) 煮出せる紅色液を示し又紅葉を手にてもみ試みしむべし
- (3) 野外又は學校園にて實地の觀察をなさしむべし

第三十四課 冬芽

(一) 教授の要項

- (1) 形態
 - (イ) 堅き芽 (ロ) 鱗片にて包まる
 - (2) 生態
 - (イ) 夏生ず (ロ) 秋の末に著しく大 (ハ) 冬の寒き氣候に堪ふ (ニ) 春伸び開く
- (二) 教授上の注意
- (1) 櫻の芽は兒童に分ちて各自に實驗せしむべし
 - (2) とちの芽の内部を示すにはピンセットにて鱗片を剝ぎ去り若しは芽の大なるものを縦斷して兒童に渡すべし

雞

第三十五課 雞

(一) 教授の要項

- (1) 形狀
 - (イ) 體肥え嘴脚共に強し (ロ) 雄(肉冠大、尾長し、距あり、時を告ぐ) (ハ) 雌(肉冠小、尾短く、距なし、時を告げず)
 - (2) 習性
 - (イ) 飛ぶこと拙し (ロ) 穀粒蟲などを食ふ
 - (3) 卵
 - (イ) 卵白、卵黄、雛の養分 (ロ) 胚(卵黄中の白き點)
- (二) 教授上の注意
- (1) 雞の形狀習性及び卵の内容は各自適宜に觀察せしむべし

第三十六課 鴨

(一) 教授の要項

土

(1) 形態

(イ) 頸(長し) (ロ) 胴(舟形) (ハ) 翼(強大) (ニ) 脚(短く、みづかき) (ホ) 嘴(扁く長し)

(2) 習性

(イ) 池沼等に群る (ロ) 秋來り春去る (ハ) 脂を羽毛に塗る (ニ) 飛ぶこと泳ぐ
こと巧 (ホ) あひるは鴨の變種

(二) 教授上の注意

(1) 鴨の標本なきときはあひる又はこがもを用ひて教授するも可なり
(2) 鴨の形態と生態との關係を特に注意して教授すべし

第三十七課 土

(一) 教授の要項

(1) 成分

(イ) 砂(粗く硬し) (ロ) 粘土(粘氣柔) (ハ) 動植物の腐りたるもの

(2) 出來方

(イ) 岩石の崩壞(空氣にさらされ、水にうたれ、木の根に侵さる)

岩石

(二) 教授上の注意

(1) 土ガラス器及び棒、水、土の出來方を示す掛圖を準備すべし

第三十八課 岩石

(一) 教授の要項

(1) 所在

(イ) 土の下 (ロ) 崖、谷間に現る

(2) 花崗石

(イ) 用途 (ロ) 成分(石英、長石、雲母)

(二) 教授上の注意

(1) 花崗石、石英、長石、雲母の標本を準備すべし

(2) 標本に用ふる花崗岩は成るべく粗粒のものを選ぶを可とす、又容易に多數の標本の得らるゝ所にては之を各兒童に配付すべし

第三十九課 石英、長石、雲母

(一) 教授の要項

第二編 第二章 各科教授

石英、長石、雲母

- (1) 水晶
 - (イ) 普通無色透明 (ロ) 六角柱 (ハ) 紫水晶、煙水晶、白水晶
 - (2) 石英
 - (イ) 硬く火に熔け難し (ロ) 水晶、瑪瑙、燧石等
 - (3) 長石
 - (イ) 白色又は肉色 (ロ) 不透明 (ハ) 粉末(陶土)
 - (4) 雲母
 - (イ) 白色又は黒褐色 (ロ) 薄く剝易し
 - (5) 所在(種々の岩石の成分)
- (二) 教授上の注意
- (1) 諸種の礦物標本及び硝子板、硝子管、酒精燈の準備をなすべし
 - (2) 石英、雲母、長石の種々の岩石中に存在せる状態は學校附近にある岩石に就きて教ふるを可とす

第四十課 黄鐵鑛

黄鐵鑛

黄鐵鑛

方解石、石灰石

- (一) 教授の要項
- (1) 形状
 - (イ) 淡黄色、不透明 (ロ) 條痕褐黑色 (ハ) 立方體に結晶
 - (2) 性質(硫黄と鐵とより成る)
- (二) 教授上の注意
- (1) 黄鐵鑛、條痕板、ガラス板、水晶、焔爐を準備すべし
- 第四十一課 方解石、石灰石
- (一) 教授の要項
- (1) 方解石
 - (イ) マッチの箱をゆがめたる形 (ロ) 白色又は灰色不透明 (ハ) 無色透明(二重文)
- (2) 石灰石
 - (イ) 方解石の集りて成れるもの (ロ) 石灰
- (二) 教授上の注意

空氣の性質

- (1) 方解石の結晶、石灰岩、大理石、石灰、ガラス片、小刀を準備すべし
- (2) 方解石の色澤、硬さなどは石英と比較して教ふべし

第四十二課 空氣の性質

(一) 教授の要項

- (1) 空氣の場所を占むること

- (イ) 實驗(一) (ロ) 實驗(二)

- (2) 空氣の壓縮せられ易きこと

- (イ) 實驗(三) 空氣銃 (ロ) 實驗(四) 噴水

(二) 教授上の注意

- (1) 大なるガラス器、コップ、鬚付、線香、水、實驗(二)に用ふる装置、簡單なる空氣銃、實驗(四)に用ふる装置を準備すべし

第四十三課 水の性質及び物體の三態

(一) 教授の要項

- (1) 水は形を變じ易きこと

水の性質及び物體の三態

- (イ) 器の形に従ふ (ロ) 液體

(2) 固體

- (イ) 石、木片等 (ロ) 形、體積共に變じ難し

- (3) 水は壓縮し難し

- (イ) 實驗 (ロ) 形は變じ易けれども體積は變じ難し

(4) 氣體

- (イ) 形、體積共に變じ易し

(二) 教授上の注意

- (1) 活塞を備へたるガラス管、水の準備をなすべし

- (2) 應用事項の試問説明をなすべし

第四十四課 熱

(一) 教授の要項

- (1) 熱及び其の移ること

- (イ) 物の燃ゆる時物を摩り合す時烈しく打つ時 (ロ) 熱き物より冷き物に移

熱

る

(二) 教授上の注意

一 (1) 金屬球二個、コップ、酒精燈、水の準備を要す

第四十五課 熱による膨脹

(一) 教授の要項

(1) 固體の膨脹(實驗一)

(2) 液體の膨脹(實驗二)

(3) 氣體の膨脹(實驗三)

(4) 膨脹の割合及び利用

(二) 教授上の注意

(1) 金屬膨脹試験器、酒精燈(實驗二)に用ふる装置、砂皿、五徳、水、實驗(三)に用ふる装置の準備をなすべし

(2) 利用の點に特に注意すべし

第四十六課 水の三態の變化

熱による膨脹

水の三態の變化

(一) 教授の要項

(1) 水の蒸氣に變ずること

(イ) 熱すれば水蒸氣に變ず (ロ) 實驗(一)(二)

(2) 水の凍ること

(イ) 冷せば氷となる (ロ) 實驗(三)

(二) 教授上の注意

(1) ビーカー、水(砂皿、五徳、酒精燈、フラスコ、雪或は碎きたる氷、食鹽試験管の準備をなすべし

(2) 應用事項の試問説明をなすべし

第四十七課 寒暖計

(一) 教授の要項

(1) 溫度

(イ) 物の冷熱 (ロ) 寒暖計の必要

(2) 寒暖計

寒暖計

(イ) 溫度を計る (ロ) 攝氏寒暖計 (ハ) 華氏寒暖計

(二) 教授上の注意

- (1) 攝氏及び華氏寒暖計の準備をなすべし
- (2) 兩氏寒暖計の用途を附説すべし

第四十八課 火

(一) 教授の要項

- (1) 火の燃ゆる間は熱と光とを發す
- (2) 燐は氣體の燃ゆる時に現る
- (3) 火の燃ゆる時には新しき空氣を要す

(二) 教授上の注意

- (1) ランプ、薄き紙片、厚紙、布片を準備すべし

第四十九課 酸素

(一) 教授の要項

- (1) 製法(鹽素酸カリウムを熱す)

(2) 性質

(イ) 無色の氣體 (ロ) 空氣より重し (ハ) 物を燃す

(二) 教授上の注意

- (1) 酸素發生裝置、鹽素酸カリウム、酒精燈、五徳、金網、水槽、水、廣口瓶、ガラス板、杉箸、細き鐵線、厚紙、硫黃、砂の準備をなすべし

第五十課 水素

(一) 教授の要項

- (1) 製法(亞鉛に稀硫酸を注ぐ)

(2) 性質

(イ) 無色の氣體 (ロ) 能く燃ゆ (ハ) 空氣中に燃えて水を生ず

(二) 教授上の注意

- (1) 水素發生裝置、亞鉛稀硫酸、水槽、廣口瓶、ガラス板、試験管、水素を燃す細管、白金線或は石綿、石鹼汁、ランプのホヤ、水等の準備をなすべし
- (2) 點火に際し純否を検し爆發を防ぐべし

第五十一課 水の成分

(一) 教授の要項

- (1) 水の成分(酸素、水素)
- (2) 化合物(二種以上のものより一種の新しき物)

(二) 教授上の注意

- (1) 貯氣器(酸素、水素)を貯へたるもの、乾ける壺、水素を燃す曲管及びビョルク栓、上口あるガラス鐘、水槽、水の準備をなすべし

第五十二課 空氣の成分

(一) 教授の要項

- (1) 成分(酸素五分一、窒素五分四)
- (2) 混合物なること

(二) 教授上の注意

- (1) 貯氣器(水素)水素を燃す曲管及びビョルク栓、水槽、水上口あるガラス鐘、曲けたる針金の先に蠟燭を挿したるもの、準備をなすべし

第五十三課 炭酸ガス

(一) 教授の要項

- (1) 製法(石灰石に鹽酸を注ぐ)
- (2) 性質

- (イ) 無色の氣體 (ロ) 空氣より重し (ハ) 水に溶解、酸味を呈す (ニ) 石灰水を濁らす (ホ) 火を燃さず

(二) 教授上の注意

- (1) 炭酸ガス發生装置、石灰石の碎片、鹽酸、廣口壺二個、石灰水、蠟燭、水槽、水等の準備をなすべし

第五十四課 燃燒によりて生ずる物

(一) 教授の要項

- (1) 炭の燃ゆる時炭酸ガスの生ずること
- (イ) 實驗 (ロ) 炭素と酸素と化合

(2) 動植物體の燃ゆる時水及び炭酸ガスを生ずること

(イ) 實驗(二) (ロ) 水素及び炭素と酸素との化合

(3) 元素(酸素、水素、窒素、炭素等)

(二) 教授上の注意

(1) 實驗(一)に用ふる装置、吸氣裝置、炭火を起したる火鉢、五徳、乾燥したる細き木片、乾きたるガラス鐘、皿、ガラス板、石灰水を準備すべし

第五十五課 春分秋分

(一) 教授の要項

(1) 春分(三月二十一日又は二十二日)

(2) 秋分(九月二十三日又は二十四日)

(3) 太陽の出入(眞の東西)

(4) 晝夜の長短(平分)

(二) 教授上の注意

(1) 春分秋分の日はその年の曆によりて教ふべし

春分秋分

本科教授
の方針

一 本科教授の方針

本科教授の要旨は教則第八條第一項に左の如く規定してある

圖書ハ通常ノ形態ヲ看取シ正シクコレヲ書クノ能ヲ得シメ兼テ美感ヲ養フヲ以テ要旨トス

今此の要旨を分解するときは、第一通常の形態を看取すること、第二正しく書くの能を得しむること、第三美感を養ふことの三つになるのである。而して此の三任務を遂行するには、抑如何なる點に注意すべきか、之に關する吾人の意を左に述べよう。

(1) 觀察力の修練 通常の形態を看取し正しく之を畫かしむるには、是非とも觀

觀察力の
修練

察力の修練といふことを要するのである。從來本科の教授には此の觀察力の修練といふことが疎略に取扱はれ、重に手腕の練習にのみ腐心してゐた傾がある。斯かる教授は寔に本末輕重を誤つたもので練習に骨を折る割合に技術が上達せず、また實用上に何等の貢献をもせず、所謂死したる教授に終るのである。それ故に今後の教授に於ては、先づ以て事物を精確に視察する修練、即ち事物の形體とか色彩とかを精密に觀察し、これに關する明確なる觀念を得せしむるやうの修練をつまねばならぬのである。實に圖畫教授の根本は此の實物に關する明確なる觀念を有せしむるにあるので、殊に實物の描寫には先づ以て此の觀察力を修練するといふことが寔に缺くべからざる要件なのである。併しながら宇宙の森羅萬象を悉く採つて以て書題とすることは兒童にとりては隨分無理な註文であり、又到底出來得べきことでもないから、小學校の圖畫教授としては通常の形體即ち兒童が日常目撃して居るものか或は他教科で學んだ形體について觀察の修練をなし、描寫の練習をなさしむるやうに規定してあるのである。

(2) 圖畫の實力練習 通常の形體につき觀察力の修練を積んでも、これを正しく描き出す技能を養成しなかつたならば、圖畫教授の目的の達せられないことは明白である。それ故に描寫の諸方式につき適切なる指導をなし且つこれを十分に反覆練習し、其の結果筋肉の運動が容易となり、一定の心意作用に伴なうて手指の運動が自由自在になるやう、言換ふれば自分の見た事物はどんな恰好にても自由自在に描寫の出來るやうに、技術上の練習を積むことが必要なのである。

(3) 記憶想像工夫力の修練 次に必要なるものは、記憶想像工夫力の修練である。蓋し圖畫は臨書にしても、記憶書にしても將た考案書にしても、嘗て實物實地につきて觀察したる舊記憶の一部又は全部を其の儘に或は想像工夫を加へないて描寫せしめるといふことは初歩の教授には幾分恕すべきも、本學年の如き高學年の兒童には決して採るべき方法ではないのである。夫故に此等諸能力の養成といふことは本科教授上最も大切なることなのである。

(4) 美感の養成 次に必要なるは美感の養成である。是は前記の形體色彩等の

美的要素に伴うて自然に養成せらるべきものであるけれども、教師の注意と心掛によりては、如何様にも其の趣旨が達し得られるのであるから、大に奮勵努力を要するのである。元來我が國は美術工藝を以て世界の各國に誇り、此等の製作品はまた我が國富の一大基礎をなして居るのであるから、美術思想を養成するといふことは、國家の發展上よりいふも又經濟上よりいふも誠に大切なることなのである。加之此の美感の養成といふことは人間の品位を高尙ならしむる點からいうても頗る大切なことであるから、かたゞ以て本科の教授に於て、大に此の點に力を致さねばならぬのである。圖書に於ける美の要素には、位置、比例、均齊、調和、變化、主眼、照應、色彩等多數にあるから、描寫の際には特に此等の諸要素に注意せしめ、一方に於ては此等諸要素の克く統一したる古今名家の圖書を觀覽せしめて美觀の養成に努めねばならぬのである。

實用的

(5) 實用的 從來の圖書は多くは娛樂的摸寫的であつて實用に疎く、生活上に何等の利益をも與へぬ、云はゞ一種の道樂的仕事としてこれを學び且つ弄んだものであつた。然るに世の進歩につれ美術工藝が益々發達し、其の消長は間接に國

本科教授
の材料
教科書の
内容

家の發展盛衰に關する有様となつたから、茲に始めて從來の圖書教授に對する覺醒を促し、専ら寫生主義、思想主義、實用主義が唱道せらるゝ様になつたのである。是れ寔に當然の事であつて、圖書教授に於ける一段の進歩といはねばならぬ。蓋し臨畫は寫生畫又は考案畫に入るの準備手段として之を學ぶべきものであつて、寫生畫考案畫は實に美術工藝の基礎となるべきものであるからである。換言すれば實物に對して自由自在に筆を揮ひ、且つ之に對して種々の想像工夫を加へ、美的要素に適合する様漸次描寫上の技術を進歩せしめてこそ、始めて實際生活上に便益を與へ且つ美術工藝の進歩を促す基ともなるのである。夫故に今後は十分に此の趣旨を徹底する様一段の努力を要する次第である。

二 本科教授の材料

(1) 教科書の内容 圖書の教科書には毛筆畫帖と鉛筆畫帖と新定畫帖との三種があるけれども、文部省は新定畫帖を以て理想の教科書とする方針であるから、本書も亦此の新定畫帖に依つて其の内容組織を吟味することにしよう。

(4) 新定畫帖は毛筆とか鉛筆とか云ふ用具上の區別を認めず、兩者を併用する

ことにしたのは特色の一である。

(ロ) 各種の材料を網羅して教授に變化あらしめ、且つ其の目撃する普通の事物に對して容易に之を描寫し得る様に企圖して居ることも亦本書の特色である。

(ハ) 物體を正確に描かしむるやうに種々の工作畫を課したるは慥に注目すべき一要件である。

(ニ) 模様の簡單なるものは低學年にも課して居るが、本學年に至りて其の形式を授けるやうにしてあるのは是れ亦注意すべき一要件である。

(ホ) 寫生畫に重きを置き出來得る限り實物を寫生せしむる様にしてあるのは、前二項と共に實用的方面を顧慮せられたる要件である。

(ヘ) 季節に注意して教材の配當をしてあるのも、教師の顧慮すべき一要件である。

(ト) 彩色配色等に關しては低學年に於ても相當の注意を拂つてあるが、本學年に至り一層注意して之を教授することになつてゐる。

(チ) 位置の取り方も本學年に至り稍系統的に之を授けることになつて居るから注意しなければならぬ。

(リ) 同一の教材を各種の方面に應用し、且つ各種の方面より見たる種々の描方を授くる様にしてあるのも、亦須く注意しなければならぬことである。

(2) 教授用具

(イ) 寫生材料 寫生材料は各地方にて成るべく實行し易いものを標準として選擇してあるから、出來得る限り兒童全部に之を持たしむるがよい。高價なるもの又は大なるもの等は必ずしも兒童數だけ無くてもよいが、斯る場合には必ず寫生臺だけは備へ、各兒童の位置よりして明かに見られるやうの設備にしなければならぬのである。

(ロ) 屋外の寫生 は兒童一人につき一枚宛の寫生板を持たしむべきである。

而して此等は一定のものを學校に備へ置き、必要に應じて使用せしむるがよいのである。

(ハ) 掛圖 色彩教授に用ふる色彩配合圖、圖案教授用の掛圖等は是非備付けて

置くべきものである。

(二) 繪具 は本學年から使用することになつて居るから、一切の附屬品即ち彩色筆、濃淡筆、洗繪具皿等と共に、是非とも之を備付けて置かねばならぬ。而して色の種類は赤、黄、青、代赭、朱、胡粉等である。

(ホ) 其の他三角定規、尺度、コンパス、毛筆、鉛筆、色鉛筆等は各學年を通じて是非とも備付けておかねばならぬ器具である。

三 本科教授上の注意

本科教授上の注意

(イ) 清潔整頓の習慣を養ふことは何れの教科目にも必要なることなれども、本科の教授に於ては特に之を重んずべし。

(ロ) 事物を精密に観察し、其の要點を明確に記憶せしむることは本科の教授上最も大切なることなり。

(ハ) 忍耐着實の良習慣を得しむることは、本科の學習上亦大に必要なることなり。

(ニ) 他教科殊に手工裁縫との聯絡に注意し、又臨書と寫生書、寫生書と考案畫、幾何書と自在書との聯絡に注意すべし。

(ホ) 校内適當の場所に繪畫を掲げ置き又は博物館、美術品展覽會等を觀覽せしめて、美術思想を養ひ高尚なる品性の養成に資すべし。

(ヘ) 兒童の優等成績品を揭示し、又一般成績品を家庭に廻覽せしむるは、本科の獎勵上最も有効なる方法なり。

(ト) 兒童の姿勢、用具の排置に注意し用具は成るべく簡單なるものを使用せしむべし。

(チ) 臨書の教授に於ては特に左の諸點に注意せしむべし。(以下の注意は白濱徹氏の說に依ること多し)

(a) 手本の内容に精通せしむること。

(b) 畫面の長さ及び幅を基本の長さ及び幅と比例せしむること。

(c) 先づ全體を描かしめ後に部分を描かしむること。

(d) 形は成るべく直線にて取らしめ、漸次曲線に直させる様にすること。

(e) 一度描きたるものは必ず其の要項を記憶せしむること。

(f) 凡を描きたるものは種々に應用せしむること。

- (リ) 寫生畫の教授に於ては特に左の諸點に注意せしむべし。
 - (a) 全體と部分との割合に注意せしむること。
 - (b) 先づ全體を描き後に部分を描かしむること。
 - (c) 目を細くして明暗を看取せしむること。
 - (d) 各部の比例は一眼を以て看さしむること。
 - (e) 畫は餘りに精細に過ぎぬ様注意せしむること。
 - (f) 主要なる諸要件を失はぬ様に注意せしむること。
- (ヌ) 工作畫教授に於ては特に左の諸點に注意せしむべし。
 - (a) 單に抽象的の圖法を授けずに日常の器物等を器械を用ひて描かしめ、圖法は夫々必要に應じて之を教授すること。
 - (b) 成るべく簡單なる材料を選ぶこと。
 - (c) 自在畫との連絡に注意すること。
 - (d) 用具の取扱に注意せしむること。
- (ル) 考案畫教授に於ては特に左の諸點に注意せしむべし。

四

圖畫科教授の實際

第一 色 圖(說 明)

(一) 教具 色の掛圖、種々の色紙、色布片

(二) 教授上の注意

- (1) 本課は書法を教ふるにあらずして全然色彩の觀念を明確にするための課なることを忘るべからず
- (2) 先づ三原色の名稱と觀念とを明確にすべし
- (3) 次に三間色の名稱及び觀念を明確にすべし

- (4) 次に右の六色に白色を加へたる色の名稱及び觀念並に黒を加へたる色の名稱及び觀念を明にすべし
- (5) 實地に色圖を作らしむべし
- (6) 種々の色紙色布片を觀察せしめ、其の色彩を識別せしめて應用的實習をなさしむべし

第二 色 圖(臨 書)

(一) 教具 コンパス、手本の擴大圖

(二) 教授上の注意

- (1) 先づ前課に於て授けたる六色の復習をなすべし
- (2) 手本及び擴大圖の觀察によりて實地に色の問答をなすべし
- (3) 實地に色圖を作らしむるに際し三色の接觸部分に注意し自然のままの顯色を俟たしむべし
- (4) 繪具の濃淡に注意せしむべし

第三 色 圖(臨 書)

色圖

菜の花

(一) 教具 コンパス、手本の擴大圖

(二) 教授上の注意

- (1) 先づ手本並に擴大圖の觀察によりて三原色の觀念を復起し、次に各間色の觀念を確實にすべし
- (2) 各自の工夫に依りて適度の色合を以て課題の色圖を作らしむべし
- (3) 手本を離れて任意の色を出し得る練習をなすべし

第四 菜の花(寫 生)

(一) 教具 菜の花の實物

(二) 教授上の注意

- (1) 實物は各兒童に用意せしむべし
- (2) 實物の觀察によりて菜の花の各部の名稱形狀並に其の色彩に關する觀念を明確ならしむべし
- (3) 時間の都合にて理科の解剖圖の如きもの、或は模様に変化したるものを畫かしむべし

第五 蝶(臨書)

- (一) 教具 蝶の實物、手本の擴大圖
- (二) 教授上の注意

- (1) 實物の觀察によりて形態各部並に其の色彩の觀念を明確にすべし。
- (2) 手本の擴大圖及び手本の觀察によりて平面圖側面圖の有様並に各部の形狀、方向、釣合等に對する觀念を明確にすべし
- (3) 鉛筆を細く削りて正確精密に書かしむべし
- (4) 時間の都合によりて(五)の幼蟲をも書かしむべし

第六 模様の組立(説明)

- (一) 教具 手本の擴大圖
- (二) 教授上の注意

- (1) 手本の擴大圖の觀察に依りて其の模様の組立方を領知せしむべし
- (2) 實地に手本の練習をなさしむべし
- (3) 之を應用して各自の工夫に依りて種々の模様を描かしめ、必要なる批評

第七 模様(考案書)

- (一) 教具 三角定規、コンパス、尺度
- (二) 教授上の注意

- (1) 前課にて練習したることの應用として描かしむべし
- (2) 手本の觀察によりて此の模様の組立方を領得せしむべし
- (3) 蝶と花との大小の釣合並に其の各の大きさ及び配置の距離等に注意せしむべし
- (4) 尺度を利用して模様の整然たる様注意せしむべし

第八 たんぼ(寫生)

- (一) 教具 たんぼ、手本の擴大圖
- (二) 教授上の注意

- (1) 實物を各兒童に用意せしめてたんぼの各部の形態色彩の觀念を明確ならしむべし

模様

- (2) 花の群と葉の缺刻とは別に部分練習をなさしめたる上にて本圖を描かしひる様にすべし
- (3) 時間の都合によりて舌状の花、一枚の葉等を寫生せしめ、更に葉及び花を手本の如く便化せしむべし

第九 模様(考案畫)

- (一) 教具 尺度、三角定規、コンパス
- (二) 教授上の注意

- (1) 手本の觀察によりて本模様の組立方を領解せしむべし
- (2) 手本の練習をなしたる後は各自の工夫により既習の花又は葉を模様の單位に利用して任意の模様を作らしめ、思考の練習をなすべし
- (3) 模様に統一あること且つ其の排置方に特に用意せしむべし

第十 砲(彈臨畫)

- (一) 教具 圓柱、圓錐、手本の擴大圖
- (二) 教授上の注意

筒

- (1) 圓柱と圓錐との觀察によりて其の觀念を明確にし、之と砲彈の形態とを比較することに依りて其の形態に關する觀念を明にすべし
- (2) 底の曲線と尖端の勾配とに注意せしめ、胴の長さを適度ならしむべし
- (3) 明暗の表はし方に注意せしむべし

第十一 筒(寫生)

- (一) 教具 筒の實物
- (二) 教授上の注意

- (1) 實物の觀察によりて形狀色彩等の觀念を明確ならしむべし
- (2) 皮の排列並に組合せ方に注意せしむべし
- (3) 色の明暗を位置部分に依りて工夫して彩色せしむる様注意すべし

第十二 蝸牛(臨畫)

- (一) 教具 蝸牛、手本の擴大圖
- (二) 教授上の注意

- (1) 實物の觀察に依りて殼の螺旋狀及び其の模様並に殼と身體との關係に

蝸牛

つぎての觀念を明確ならしむべし

(2) 穀と身體特に觸角の方向並に葉との關係に注意せしむべし

第十三 器具(寫生)

(一) 教具 蓋付の茶碗、手本の擴大圖

(二) 教授上の注意

(1) 實物の觀察に依りて其の形態並に各部の釣合等の觀念を明確にすべし

(2) 中央に縦線を劃して左右の對照の正否を檢せしむべし

(3) 各孤線のふくらみ方に特に注意せしむべし

(4) 時間に餘裕あらば應用として他の器具をも描かしむべし

第十四 位置の取方(説明)

(一) 教具 壺とコップ、種々の位置を示せる擴大圖

(二) 教授上の注意

(1) 實物の位置の取り方並に擴大圖の觀察に依りて其の恰好の相違と適否との觀念を明確にすべし

(2) 各位の取り方の批評をなし其の理由を明にすべし
(3) 之を書かしたる後ち時間に餘裕あらば他の器物二三につき應用的に位置の取り方を練習すべし

第十五 盆と茶碗(考案書)

(一) 教具 茶碗、湯呑、盆

(二) 教授上の注意

(1) 前課にて練習したることの應用として描かしむべし

(2) 實物の置方を種々に變化して兒童をして其の適否を批評せしむべし

(3) 手本の位置につき練習せしめ、後ち更に各兒童の任意の考案に依りて種々の位置を取らしめて之を書かしむ

第十六 笠と鍬(臨書)

(一) 教具 笠と鍬、手本の擴大圖

(二) 教授上の注意

(1) 實物の觀察によりて笠と鍬との形狀に對する觀念を明確にすべし

胡瓜

(2) 手本の擴大圖の觀察によりて位置の取り方につき批評せしめ適當なる觀念を得しむべし

(3) 笠の勾配蘭の略し方並に鍬の柄の金屬部との長短並に勾配の關係に注意すべし

第十七 胡瓜(寫生)

(一) 教具 胡瓜

(二) 教授上の注意

(1) 實物の觀察によりて色彩形態に對する觀念を明確にすべし

(2) 頭部と尾端との大きさの釣合に注意せしむべし

(3) 色の濃淡並に尾端の模様は注意せしむべし

第十八 茄子(寫生)

(一) 教具 茄子

(二) 教授上の注意

(1) 實物の觀察に依りて形態色彩に對する觀念を明確ならしむべし

朝顔

(2) 實のふくらみ方と色彩の濃淡とに注意せしむべし

(3) 各種の位置に於ける形態を畫かしむべし

第十九 朝顔(寫生)

(一) 教具 朝顔、手本の擴大圖

(二) 教授上の注意

(1) 實物の觀察によりて花葉の形態、色彩の觀念を明確ならしむべし

(2) 花の形狀につき特に注意して畫かしむべし

(3) 花の彩色の濃淡につき注意せしむべし

(4) 花と葉との側面斜面の畫方につき注意せしむべし

(5) 教授時間の都合により各方面より眺めたる花を便化せしむべし

第二十 配色圖(説明)

(一) 教具 手本の擴大圖

(二) 教授上の注意

(1) 掛圖及び手本の觀察によりて配色圖の組織を説明領解せしむべし

配色圖

模様

清書

- (2) 手本によりて兒童各自に書かしむべし
- (3) 地色と模様との濃淡につき領得せしむべし

第二十一 模様(臨書と考案書)

(一) 教具 尺度、コンパス、三角定規

- (1) 前課にて練習したることの應用として描かしむべし
- (2) 手本の觀察によりて模様の書き方を領解せしむべし
- (3) 色を當籤めるに際し彼此の對應する様注意せしむべし
- (4) 如何なる色を用ふるかは十分に工夫せしめ、且つ其の濃淡方につきて工夫せしむべし

模様

第二十二 模様(考案書)

(一) 教具 模様の参考圖、尺度、三角定規

- (二) 教授上の注意
 - (1) 参考圖の觀察に依りて模様の組立を領得せしむべし
 - (2) 模様の單位を選定し先づ之を練習せしむべし

本箱の工作圖

- (3) 方眼中に布置する各單位の形態大きさに注意し整然たる統一ある様にするべし

第二十三 本箱の工作圖(臨書)

(一) 教具 本箱、尺度、三角定規、コンパス

- (二) 教授上の注意
 - (1) 實物を正面側面及び平面に觀察せしめ其の書き表はすべき部分に對する觀念を明確ならしむべし
 - (2) 縮尺の割合を異にして種々に練習せしむべし
 - (3) 縮尺を計算する際割切れざるときは分に止め以下は四捨五入せしむべし

机の工作圖

第二十四 机の工作圖(寫生)

(一) 教具 机、尺度、三角定規、コンパス

- (二) 教授上の注意
 - (1) 前課にて練習したることの應用として描かしむべし

幾何形

- (2) 實物の正面及び側面の觀察によりて其の書き表し方を領得せしむべし
- (3) 尺度、定規等を正確に使用することに慣れしむべし
- (4) 製圖に記入する寸法の書方に注意せしむべし

第二十五 幾何形説明と臨書

- (一) 教具 尺度、三角定規、コンパス
- (二) 教授上の注意

- (1) 各幾何形の名稱と意義とに關する觀念を明確にすべし
- (2) 各形につき其の書き方を説明し一線毎に教師の指示に依り逐次に之を書かしむべし
- (3) 特に尺度、三角定規、コンパスの使用法に熟練せしむべし

第二十六 模様の組立説明

模様の組立

- (一) 教具 模様の參考圖、手本の擴大圖
- (二) 教授上の注意

- (1) 手本の擴大圖の指示觀察によりて模様の組立方に關する明確なる觀念

菊

を得しむべし

- (2) 種々の輪廓に種々の模様を工夫して描かしむる様應用と考案とを十分に練習すべし

第二十七 菊寫生

- (一) 教具 菊、手本の擴大圖
- (二) 教授上の注意

- (1) 實物の觀察によりて形態色彩の觀念を明確にすべし
- (2) 花及び葉の方向と其の形の變化との關係を知らしめ且つ教授時間の都合にて成るべく各方面より觀察したる形を書かしむべし
- (3) 葉の缺刻、色彩の出し方に注意せしむべし

第二十八 模様考案書

模様

- (一) 教具 尺度、三角定規、コンパス、手本の擴大圖
- (二) 教授上の注意

- (1) 手本の擴大圖の觀察に依りて其の組立方を領得せしむべし

- (2) 一應手本の通りに書かしむべし
- (3) 應用として更に兒童の工夫に依りて各單位の組立方を變化して描かしむべし

第二十九 茸(臨 畫)

- (一) 教具 松茸初茸又は他の茸
- (二) 教授上の注意

- (1) 實物の觀察によりて各部分の形狀並に色彩の觀念を明確にすべし
- (2) 先づ別々に描き次に兩者の配置方を工夫せしむべし
- (3) 變と色の出し方とに注意せしむべし

第三十 栗(臨 畫)

- (一) 教具 栗手本の擴大圖
- (二) 教授上の注意

- (1) 實物の觀察によりて形態色彩の觀念を明確にすべし
- (2) イガの方向長さに注意せしむべし

- (3) イガと實との位置の配合に注意せしむべし
- (4) 色の濃淡の出し方に注意せしむべし

第三十一 柿(寫 生)

- (一) 教具 柿手本の擴大圖
- (二) 教授上の注意

- (1) 實物の觀察によりて各部分の形狀並に色彩の觀念を明確にすべし
- (2) 萼の附け方に注意せしむべし
- (3) 陰陽の面に對する色の出し方に注意せしむべし
- (4) 幾つかの柿を畫くに其の配置組立方に注意せしむべし

第三十二 位置の取方(說 明)

- (一) 教具 毛筆二本、手本の擴大圖
- (二) 教授上の注意

- (1) 一より九までの擴大圖を指示觀察せしめて其の位置の取方の適否を批評領得せしむべし

柿と栗

- (2) 毛筆の外鉛筆小刀等を組合せて位置の取方を工夫せしむべし
- (3) 更に三本四本の組合せ方をも工夫すべし

第三十三 柿と栗(考案畫)

- (一) 教具 手本の擴大畫

(二) 教授上の注意

- (1) 前課にて練習したることの應用として描かしむべし
- (2) 手本の擴大圖の觀察によりて柿と栗との大きさの割合並に位置の取り方につきて批評領得せしむべし
- (3) 先づ別々に描き次に兩者の配置方を工夫せしむべし

蜜柑

第三十四 蜜柑(寫生)

- (一) 教具 蜜柑

(二) 教授上の注意

- (1) 實物の觀察によりて形態色彩の觀念を明確にすべし
- (2) 輪廓の曲線、葉の付き方及び方向に注意せしむべし

配色圖

第三十五 配色圖(説明)

- (3) 陰陽に對する色の出し方に注意すべし
- (4) 二個以上を描く時の配置方に注意せしむべし

- (一) 教具 手本の擴大圖、參考掛圖

(二) 教授上の注意

- (1) 擴大圖の指示觀察によりて配色の構成方を領得せしむべし
- (2) 色の濃淡の利害を領解せしむべし
- (3) 随意に範圍の一を書かして色の出し方を練習すべし

第三十六 模様(臨畫と參考畫)

- (一) 教具 尺度、三角定規、手本の擴大圖

(二) 教授上の注意

- (1) 前課にて練習したることの應用として描かしむべし
- (2) 手本の擴大圖の觀察によりて模様の組立方を領得せしむべし
- (3) 模様の單位の選擇並に其の組立方に注意すべし

模様

(4) 配色の適否、濃淡につき工夫せしむべし

第三十七 模 様(參考書)

(一) 教具 尺度、三角定規、コンパス

(二) 教授上の注意

(1) 手本につきて各單位の名稱意義を知らしむべし

(2) 模様の單位の組合せ方、色の配合に注意せしむべし

第三十八 書 物(寫 生)

(一) 教具 洋本と和本、手本の擴大圖

(二) 教授上の注意

(1) 實物の觀察によりて形態と色合の觀念を明確にすべし

(2) 全體の形よりも洋本の背部にある金文字の如きもの或は他の細部を精密に畫かしめんとするものなれば注意すべし

(3) 二冊の配置方に注意せしむべし

(4) 場合によりては開きたる本或は其の配置を變更して種々なる位置に置

きたる本の看取圖を描かしむべし

第三十九 インキ壺とペン(寫 生)

(一) 教具 インキ壺、ペン

(二) 教授上の注意

(1) 實物の觀察によりて形態、色合の觀念を明確にすべし

(2) 兩者の配置方につき工夫せしむべし

(3) ペンの長さ、インキ壺の胴と頸との釣合、明暗の書き方につき注意せしむべし

第四十 筆 洗(寫 生)

(一) 教具 筆洗、手本の擴大圖

(二) 教授上の注意

(1) 實物の觀察によりて形態並に見方によりて表はるゝ部分の觀念を明確にすべし

(2) 弧線の膨らみ方と中仕切の付け方に注意すべし

釜

- (3) 陰陽の塗り方の濃淡に注意すべし
- (4) 時間の都合によりて種々の方面より観察したる看取圖を畫かしむべし

第四十一 釜(臨 畫)

- (一) 教具 釜、手本の擴大圖

(二) 教授上の注意

- (1) 實物の觀察によりて形態の觀察を明確にすべし
- (2) 各弧線の並行する様且つ其の膨らみの度合に注意せしむべし
- (3) 陰陽によりて線に濃淡大小の差あることを知らしむべし

巻物

第四十二 巻物(臨 畫)

- (一) 教具 巻物、手本の擴大圖

(二) 教授上の注意

- (1) 實物の觀察によりて形態並に書き表はすべき部分の觀念を明確にすべし
- (2) 模様並に明暗の書き方につき注意せしむべし

筆入の工
作圖

第四十三 筆入の工作圖(寫 生)

- (一) 教具 筆入、尺度、三角定規、コンパス

(二) 教授上の注意

- (1) 實物の觀察によりて書き表はすべき部分の觀念を明確にすべし
- (2) 正確に描くことに注意せしむべし

第四十四 筆入の工作圖(寫 生)

- (一) 教具 筆入を展開したる標本、尺度、三角定規、コンパス

(二) 教授上の注意

- (1) 立方體形の展開圖法を領得せしむべし
- (2) 正確に書くことを主とすべし

第四十五 模 様(考案畫)

模 様

- (一) 教具 硯箱、尺度、三角定規、コンパス、手本の擴大圖

(二) 教授上の注意

- (1) 先づ硯箱の開展圖を描かしむべし

- (2) 模様は任意の意匠にて描かしむるも可なり
- (3) 彩色の配合に注意せしむべし

第八節 唱歌科教授

本科教授の方針

教則第九條第一項に

唱歌ハ平易ナル歌曲ヲ唱フルコトヲ得シメ兼テ美感ヲ養ヒ徳性ノ涵養ニ資スルヲ以テ要旨トス

と示されてある。今此の規定に依るときは、小學校に於ける唱歌教授の要旨は大體三つになるのである。即ち第一は平易なる歌曲を歌ふ能を養ふこと、第二は美感を養ふこと、第三は徳性の涵養に資することは是れである。

(1) 平易なる唱歌 小學校に於ける唱歌教授の本旨は、平易なる唱歌を唱ふることを得しむるにあるのであつて、決して困難なる歌曲を強ふべきものでなく、必ず兒童の年齢嗜好に相應したる平易なる歌曲を採用すべきものである。然る

平易なる唱歌

に從來多くの小學校では、餘りに此等の事に頓着せずして、只教師自身の嗜好に依つて教材を選択し、肝腎の主體たる兒童のことを忘れて、兒童に取りては頗る難澁なる歌曲を強ひようと骨折つてゐた傾がある。斯くては本規定の趣旨に背反して、まことに遺憾の次第であるから、今後は一層此の點に對して注意あらんことを望む次第である。

(2) 美感の養成 本科教授の第二の目的は精神的方面の陶冶であつて、歌曲歌詞の美とか、聲音の美とかいふことに依つて美的趣味を養ひ、以て高尚閑雅なる情操を修練し、國民の品位を高めんと欲するものである。此のことはまことに必要なることであつて、社會に於ける物質的文明の進歩するに従つて益々其の必要を感じるのである。蓋し物質的文明が進歩すれば進歩する程、精神的方面の趣味が下落する傾があることは争はれぬ事實であつて、これが救済の方法に就ては、文明國々民の何れも苦心して居る所なのである。小學校に於ける圖書及び唱歌の二科が一面斯る見地の下に課せられてあるものとすれば、其の任務の頗る重きを自覺して相當に盡力するところがなければならぬのである。

美感の養成

然るに從來に於ける小學校の唱歌教授が、一般に單に技能の方面にのみ趨せて斯る大切な精神的方面の陶冶を忘れて居た傾きのあつたのは、本科教授上に於ける一大缺點といはねばならぬ。故に今後には大に此の方面に力を致さなければならぬと信ずるのである。

(3) 徳性の涵養 第三は兒童の徳性を涵養するといふことである。高尚閑雅なる情操の下には決して罪惡は潜まぬが、不良なる言動には賤劣なる感情が付き纏ひ、下劣なる情慾の潜み隠れて居ることは争はれぬ事實である。小學校に於ける唱歌教授は、斯る見地よりして兒童の道德的品性を修練せんことを期して居るのであるから、能く此の趣味を領解して、常に平易雅正にして兒童の心情を快活純美ならしむるやうの歌詞樂譜を課し、以て美感の養成をなすと同時に大に此の徳性の涵養といふことに努めねばならぬのである。

二 本科教授の材料

(1) 教材の選擇 唱歌は上述の如き重大なる任務を有するものであるが、如何に要求が立派であつても、肝腎の材料が精選せられてなかつたならば到底其の要

徳性の涵

本科教授
の材料
の選擇

求を満足せしむることは出来ないものである。夫故に本科教授の趣旨を十分に徹底せしめようと思つたならば、是非此の教材の選擇といふ事に關して十分の注意を拂はねばならぬのである。然らば如何にして此の教材を選擇するかといふに、教則第九條第四項に「歌詞及樂譜ハ平易雅正ニシテ兒童ノ心情ヲ快活純美ナラシムルモノタルヘシ」とあり、また明治二十七年十二月文部省訓令第七號の小學校唱歌用歌詞及樂譜の採用に關する制限には、

小學校ニ於テ唱歌用ニ供スル歌詞及樂譜ハ本大臣ノ檢定ヲ經タル小學校教科用圖書中ニアルモノ又ハ文部省ノ選定ニ係ルモノ及地方長官ニ於テ本大臣ノ認可ヲ經タルモノノ外ハ採用セシムヘカラス但地方長官ニ於テ一旦本

と規定せられてある。故に此の兩規定に基きて教材を選擇すべきことは申すまでもないことであるが、今此等の規定に基き教材選擇上注意すべき要點を左に述べて見よう。

(イ) 歌詞 唱歌教授に依つて美感を養ひ徳性の涵養に資するいふことは、歌詞

が平易であつて兒童の心的情態に適し、之を唱へる時は何となしに心情が快活純美となり、知らず識らずの間に之を口唱するといふやうなものでなければならぬ。随つて歌詞の難易の程度は國語讀本と同等若しくはそれ以下なることを要し、内容も成るべく修身、國語、歴史、地理等の中に現はれてゐるものを可とするのである。然るに今日一般に歌つて居る唱歌は歌詞が頗る難解で、兒童は之を唱へながら何を歌つて居るか一向其の意味を解して居ない様なことがあつて、恰も蓄音機同様に只器械的に發聲をして居るに過ぎぬといふやうなことが多いのは頗る注意すべき事項であると思ふのである。

(ロ) 歌曲 兒童が愉快に知らず識らずの間に唱歌しつゝあるといふ様にさせるには、歌詞の平易に加ふるに歌曲の平易を以てしなければならぬ。月の夜花の晨、節面白く唱歌を歌ひながら漫步する其の間に、何物の邪心をか挟まう。かく高潔純正にして心身自ら神々しく感ずるやうにありてこそ、始めて唱歌が道德的方面に資するのである。然るに今日一般の弊は、徒らに流行の新を競ひ、歌詞歌曲の難易適不適を省みず、専ら教師自身の趣向を本位として兒童

(2) 教室及教具

の嗜好情操の修練などいふやうなことには一向に考を及ぼさない人が多いのにあるのであつて、吾人の甚だ遺憾とするところである。宜しく本科教授の趣旨を玩味し、慎重以て事に當らなければならぬのである。

(ハ) 本書の教材 本書に記載した教材は、在來の唱歌集より適當と思惟したものを抜摘したのであつて、必ずしも採用しなければならぬといふ譯ではないから、實際上に於ては適宜斟酌して教授せられんことを希望する次第である。

(イ) 教室 上來屢々繰り返して述べた通り、唱歌は情操の修練といふことに重きを置いてゐるのであるから、其の教室の如きも普通のものとは自ら趣を異にし、其の教室に入れば自ら心情が快活となり爽快となるやうの設備のものでなければならぬのである。彼の劇場などに於て其の背景周囲の設備を立派にし、演技以外に一種の感動を觀客に與へようと務めて居るのも、全く之と同様の趣旨によるのである。

さて唱歌室の設備につきて注意せねばならぬことは第一に採光であつて、教

室の左右並に背の三方から光線を採るやうにすることが必要である。第二は窓掛及び壁の色合を卵色か又は桃色の如き快活なる派手な色にすることが必要である。第三には扁額、掛物、生花、盆栽等を利用して室内の裝飾を高尙閑雅にすることが必要である。第四には書寫臺の付きたる腰掛を備付け、其の色合も成るべく黄赤の如き快活なるものを用ふることが肝要である。

(カ) 教具 本科の教授用具としては、第一に樂譜の掛圖、第二に歌詞を説明するに用ふる掛圖、寫眞等が必要であつて、その他掛圖掛、メトロノーム、調子笛等は常に備付けて置かねばならぬものである。

三 本科教授上の注意

- (イ) 姿勢と發聲とは密接の關係あるものなれば、常に姿勢を正しくして發聲を自由ならしむべし。
- (ロ) 毎時適當の際に呼吸法、音階練習、音程練習をなすべし。
- (ハ) 團體的練習と個人的練習とを適當に行うて、聲音の休息並に個人批評の便益を圖るべし。

本科教授
上の注意

- (ニ) 初は樂器にて唱へしむるも後には聲樂によりて獨唱せしむる迄に至らしむべし。
- (ホ) 一度教授したる歌曲は屢之を反覆練習して十分に其の趣味を玩味せしむべし。
- (ヘ) 美的趣味の養成は、本科教授上の大眼目なれば、教授中に我を忘れて愉快に唱歌する様にあらしむるを要す。
- (ト) 批評は口先又は理窟詰に之を爲さず、教師自身模範を示して其の間に兒童各自の缺點を自省せしむるを要す。
- (チ) 教師の範唱は器樂よりも聲樂なるをよしとす。
- (リ) 漫りに大聲を張り上げ蠻聲を弄せしむるが如きは發聲機關を損傷する憂あれば注意すべし。
- (ヌ) 發聲器の不十分なる兒童に對しては特別の取扱をなすを要す。
- (ル) 君が代の國歌並に式日の唱歌等に對しては特に謹嚴なる態度を以て之を教授すべし。

四 唱歌科教授の實際

第一 金剛石(新編教育唱歌集二三一)

- (一) 教具 兒童勉學の圖
- (二) 教授上の注意

- (1) 修身卷五第二「皇后陛下」と關聯して教授すべし
- (2) 強弱に注意して緩く靜に唱へしむべし

第二 櫻(唱歌教科書卷二)

- (一) 教具 歌意を表はせる圖
- (二) 教授上の注意

- (イ) 溫和なる想にて歌はしむべし

第三 舞へや歌へや(讀本唱歌)

- (一) 教具 歌意を表はせる圖
- (二) 教授上の注意

- (イ) 讀本卷九第四課「舞へや歌へや」と關聯して教授すべし

- (ロ) 軽く快活に歌はしむべし

第四 靖國神社(小學唱歌卷五下一三)

- (一) 教具 靖國神社圖
- (二) 教授上の注意

- (1) 讀本卷九第九課「靖國神社」と關聯して教授すべし
- (2) 重く奇麗に唱へしめ且つ強弱には殊に注意すべし

第五 君が代の初春(中等唱歌集)

- (一) 教具 歌意を表はせる圖
- (二) 教授上の注意

- (イ) 緩く靜に歌はしむべし
- (ロ) 半音に注意すべし

第六 雲(教育唱歌)

- (一) 教具 歌意を表はせる圖
- (二) 教授上の注意

- (イ) Tの記號に注意すべし
- (ロ) 軽く歌はしむべし

第七 夏休み(尋常小學唱歌一學年上二八)

- (一) 教具 歌意を表はせる圖
- (二) 教授上の注意

(1) 1/4拍子強弱に注意して快活に唱へしむべし

第八 白蓮白菊(小學唱歌集第三篇二〇)

- (一) 教具 白蓮白菊の圖
- (二) 教授上の注意

(1) 連結記號小節の省略に注意して中庸に歌はしむべし

第九 高津宮(新編教育唱歌集一八五)

- (一) 教具 仁德天皇炊烟を望み給ふ圖
- (二) 教授上の注意

(1) 歴史卷一第五仁德天皇と關聯して教授すべし

夏休み

白蓮白菊

高津宮

白虎隊

三才女

漁業の歌

(2) 靜肅に唱へしむべし

第十 白虎隊(教育唱歌)

- (一) 教具 歌意を表はせる圖
- (二) 教授上の注意

(1) 附點音符十六音符に注意すべし

(2) 勇ましく歌はしむべし

第十一 三才女(讀本唱歌)

- (一) 教具 三才女の肖像
- (二) 教授上の注意

(1) 讀本卷九第二十六課「三才女」と關聯して教授すべし

(2) ㄨ□の記號發想に注意すべし

第十二 漁業の歌(新編教育唱歌集)

- (一) 教具 歌意を表はせる圖
- (二) 教授上の注意

(1) 休止符及び音符に注意して活潑に唱へしむべし

第十三 四季の月(新編教育唱歌集二四五)

(一) 教具 歌意を表はせる圖

(二) 教授上の注意

(1) 極めて流暢に歌はしむべし

(2) 第三の歌詞を初めに授くべし

第十四 赤穂義士(尋常小學校唱歌四學年中三)

(一) 教具 義士復讐の圖

(二) 教授上の注意

(1) 急拍子、附點音符に能く注意すべし

第十五 歲暮(新編教育唱歌集四〇五)

(一) 教具 歲暮の光景圖

(二) 教授上の注意

(1) $\frac{6}{8}$ 拍子

(2) 拍子に注意して感情的に稍早く歌はしむべし

第十六 水師營の會見(讀本唱歌)

(一) 教具 歌意を表はせる圖

(二) 教授上の注意

(1) 讀本卷十第十二課「水師營の會見」と關聯して教授すべし

第十七 雪(教育唱歌卷二)

(一) 教具 歌意を表はせる圖

(二) 教授上の注意

(1) $\frac{1}{4}$ 拍子第四段は $\frac{1}{4}$ 拍子と變化す

(2) 十六音符に注意すべし

第十八 美しき天然(教育唱歌卷三)

(一) 教具 歌意を表はせる圖

(二) 教授上の注意

(1) 滑かに唱へしむべし

- (一) 教具 笠置落の圖
- (二) 教授上の注意

- (1) 讀本卷十第二十四課「松の下露」と關聯して教授すべし
- (2) 1/4拍子強弱緩急に注意して悲壯に唱へしむべし

第二十 千引の岩(國歌唱歌集)

- (一) 教具 歌意を表はせる圖
- (二) 教授上の注意
 - (1) 稍速に威嚴を以て唱へしむべし
 - (2) 拍子に注意すべし

第九節 體操科教授

本科教授の方針

一 本科教授の方針
教則第十條第一項の規定によると、

體操ハ身體各部ヲ均齊ニ發達セシメ四肢ノ動作ヲ機敏ナラシメ以テ全身ノ健康ヲ保護増進シ精神ヲ快活ニシ剛毅ナラシメ兼テ規律ヲ守リ協同ヲ尙フ習慣ヲ養フヲ以テ要旨トス

とあつて大體之を二つに分けることが出来る、即ち其の一は身體的方面の鍛練であつて其の二は精神的方面の修養である。

身體の鍛練

(1) 身體の鍛練 これには左の數項の要件がある。

第一の趣旨たる身體の各部を均齊に發育せしむるといふことは、人間の肉體美の點から云うても、機能の上からいうても、健康の上から云うても、まことに必要なことである。日本人は一般に軀幹に比例して下肢が短く、外觀上甚だ體裁が悪いと萬人の等しく認むるところである。其の他個人に就ても一部分の發育の不完全な人は、必ず其の部分の機能が鈍く、全體の健康上にも亦宜しくないものが多いのである。それ故に本科に於ては身體各部の調和的發育といふことを希望して居るのであるが、之が爲には各特殊の目的を有する各種の運動を、適宜に組合せて之を課する様にせねばならぬのである。

第二の趣旨たる四肢の動作を機敏ならしむるといふことは、事に當り物に接して機敏なる動作を必要とするといふ點から要求せられたものであるが、一面身體の健康を進むる上からいっても亦大に必要なることであるから、本科教授の際には特に此の四肢の運動といふことに注意し、敏活に其の運動が行はれるやうに練習を積んでおかねばならぬのである。

第三の趣旨たる全身の健康を保護増進するといふことは、實に本科に於ける身體的方面の究極目的であつて、前の二要旨の如きも畢竟此の目的を達する手段として示されたるものに外ならぬのであるから、本項の趣旨を貫徹する上に對しては最も心力を注がねばならぬのであるが、併しながら只一概に運動にのみ熱中して、甲乙の區別もなく一樣に激烈なる運動を課するといふことは、深く慎まねばならぬことである。多數兒童の中には或は先天的に身體の虛弱な者もあらう、或は一時健康を損して居るものもあらう、斯る事情の下にある兒童を、一切平等無差別に激烈なる運動を課するといふことは、甚だ謂はれのないことで

あつて、教則に所謂保護増進といふことは斯る場合に注意することを意味したのであることを思はねばならぬのである。即ち或者は消極的に身體を保護する必要があり、或者は積極的に健康を増進せしむる必要があるのである。故に此の趣旨を貫徹するに就ては、よく各兒童の事情を考へて之を實施する様に致さねばならぬのである。

(2) 精神の修養 此の方面の中には(一)精神を快活ならしむること、(二)剛毅の氣象を養ふこと、(三)規律を恪守する習慣を養ふこと、(四)協同一致を尙ぶ習慣を養ふことの四が含まれて居るのである。而して快活なる精神とか、剛毅の氣象とかいふものは、餘程身體の健全といふことと關聯するものであつて、身體の健康を増進すれば、其の間に幾分か其の目的が達し得られるものであるけれども、決して斯る自然の結果にのみ待つべきものでなく、體操遊戲中に於て進んで大に之を養成することを心掛けねばならぬのである。即ち輕便敏速なる動作によりて精神を快活ならしめ、運動の反覆、動作の確實等によりて大に剛毅の氣象を養成することが肝要である。また規律を守らしめ共同一致の精神を養ふことは本

科の性質上最もこれに適して居るのであるから、集合解散より一舉一動の微に至るまで、總べて嚴正なる號令の下に動作せしめ、以て秩序あり規律ある行動に慣れしめ、又一人の不注意の爲に全體の規律を亂し、一人の不都合の爲に全體の敗北を來すといふやうな事實を的確に兒童に自覺せしめ、以て共同一致の精神を養ふことに努めねばならぬのである。斯くの如く本科は精神的方面に重い任務を持つて居るのであるから、修身科などと相俟つて十分に此の方面の訓練に努力せねばならぬのである。

二 本科教授の材料

本科教授
の材料
の選擇

(1) 教材の選擇 前述の趣旨目的を貫徹する爲に如何なる材料を選擇すべきかといふに、まづ教則第十條には

尋常小學校ニ於テハ初メハ適宜ニ遊戯ヲナサシメ漸ク普通體操ヲ加ヘ又男子ニハ兵式體操ヲ加ヘ授クヘシ

と規定してあるのであるが、今此等各種の運動につき取扱上の要旨を左に述べて見よう。

(イ) 遊戯 遊戯は快活なる精神を養ひ、健康と活力とを増進し、兼て共同一致、規律、忍耐、勇氣、同情等の諸徳を養成することを目的として課するのである。故に低學年のみに限らず、一般兒童に之を課すべきものであるが、特に級戯は其の學級の特長を發揮せしむべく、且つ此等諸方面の目的を到達する上に頗る効果の多いものであるから、盛に之を獎勵する様に致したいのである。

(ロ) 普通體操 此の中には徒手體操と啞鈴體操とを含んで居るのであるが、何れも身體各部の均齊發達と精神的方面の訓練とを目的として課するのであるから、此の運動を行ふ際には、決して一方に偏せず、成るべく各種の運動を身體の各部に亘りて行はしむるやうにせねばならぬのである。合同體操は規律とか協同一致の精神とかを養ふ上に大に必要なものであるから、是非とも之を課する様に致したいのである。

(ハ) 兵式體操 は専ら隊列を主とし、協同一致、規律、節制、服従等の精神の養成を目的として課するのである。故に此の運動を課する場合には號令は嚴明にして少しの假借もなく、全隊の整正といふことに注意せねばならぬのである。

(一) 本書の教材 本書に載するところの教材は、以上教授上の主義方針に基き其の二三の適例を示したに過ぎないのであるから、實地教授者は宜しく適宜に之を取捨選擇して教授せんことを希望するのである。

三 本科教授上の注意

- (イ) 體操は一時間中に於て成るべく身體各部に亘りて之を行はしむる様注意すべし。
- (ロ) 體操は初は徐々に、中頃急に、終は又徐々に之を行はしむるを要す。
- (ハ) 體操はたとひ三十分間づゝなりとも成るべく毎日これを課するやうにすべし。
- (ニ) 食事の前後は成るべく體操を課せざるやう時間割を編製すべし。
- (ホ) 體操教授後直ちに湯茶を飲ましむるは衛生上に害あれば成るべく之を避くべし。
- (ヘ) 體操は成るべく屋外にて之を行ひ、屋内體操場の設備なき學校にても雨天などの時に之を休まず、室内又は廊下等にて之をなさしむべし。

本科教授上の注意

- (ト) 體操は教師兒童共に元氣よく快活に之を行ひ決して嫌惡怠慢の狀あらしむべからず。
- (チ) 批正は口先又は理窟詰に之を爲さず教師自身模範を示してこれを導くを要す。
- (リ) 煩雜なる説明又は準備等の爲に大切なる體操遊戲實演の時間を減殺せざる様注意すべし。
- (ヌ) 教師の號令は簡單明瞭にして全兒童に徹底せしむる様十分の注意を要す。
- (ル) 本科の教授にて養成したる精神的方面の氣風は常に之を保有せしめんことに努力すべし。
- (ヲ) 身體検査の結果は本科教授の反省資料として常にこれを利用せんことを要す。

四 體操科教授の實際

第一 普通體操 (其一) 各個演習

(一) 教授事項

第二編 第二章 各科教授

體操科教授の實際
各個演習

- (1) 頭
 - (イ) 前後屈 (ロ) 左右屈 (ハ) 左右轉回
- (2) 上肢
 - (イ) 内外轉 (ロ) 前伸 (ハ) 側伸 (ニ) 上伸 (ホ) 後伸 (ヘ) 前側上後伸
- (3) 平均
 - (イ) 舉踵半屈膝 (ロ) 屈膝舉股 (ハ) 脚の前(左右側後)舉
- (4) 肩及背
 - (イ) 臂前上舉 (ロ) 臂側上舉 (ハ) 臂交叉 (ニ) 臂上後方振 (ホ) 翼狀振
- (5) 腹腰
 - (イ) 上體前後屈 (ロ) 上體側屈 (ハ) 上體轉回
- (6) 懸垂
 - (イ) 懸垂(鐵棒、水平棒) (ロ) 兩側懸垂(並行水平棒)
- (7) 跳躍
 - (イ) 轉向跳躍 (ロ) 前進跳躍 (ハ) 前進高跳 (ニ) 前進幅跳

- (8) 下肢
 - (イ) 交叉出 (ロ) 步行廻轉 (ハ) 十字行進
- (9) 呼吸
 - (イ) 臂側舉 (ロ) 臂廻轉舉踵
- (二) 教授上の注意
 - (1) 運動の種類によりて緩急に注意すべし
 - (2) 呼唱の長くならぬ様呼唱と舉動の一致する様注意すべし
 - (3) 運動の際は上着羽織を脱がしむべし
 - (4) 時々兒童を教師の位置に立たしめて演習せしむべし
 - (5) 休憩の時元の位置を離れざる様注意すべし
 - (6) 出來得る限り反覆練習の度數を多くすべし
 - (7) 女子は着袴せしむるをよしとす
- (一) 教授事項
 - 第二 普通體操 (其二) 啞鈴體操

- 1) 頭
 - (イ) 前後屈
 - (ロ) 左右屈
 - (ハ) 左右轉回
- 2) 上肢
 - (イ) 内外轉
 - (ロ) 前伸
 - (ハ) 側伸
 - (ニ) 上伸
 - (ホ) 後伸
 - (ヘ) 前側上後伸
 - (ト) 上屈臂
- 3) 平均
 - (イ) 舉踵、半屈膝臂の側上舉
- 4) 肩及背
 - (イ) 鐵床
 - (ロ) 屈膝右側出、左臂の廻旋
 - (ハ) 鐵床
 - (ニ) 屈膝左側出、右臂の廻旋
- 5) 腹腰
 - (イ) 上體前後屈
 - (ロ) 上體左右屈
 - (ハ) 上體轉回
- 6) 跳躍
 - (イ) 前後左右開脚跳躍

- 7) 下肢
 - (イ) 交叉出
 - (ロ) 步行廻轉
 - (ハ) 十字行進
 - 8) 呼吸
 - (イ) 臂側舉
 - (ロ) 臂廻轉舉踵
- (二) 教授上の注意
- (1) 各個演習に同じ
- 第三 兵式體操
- (一) 教授事項
- (1) 縱隊行進
 - (2) 横隊行進
 - (3) 行進間の轉向
 - (4) 方向變換
 - (5) 斜行進
 - (6) 横隊を縱隊に縱隊を横隊に變ずること

(7) 駢足

(二) 教授上の注意

- (1) 集合解散を極めて迅速になさしむべし
- (2) 規律正しく活潑に運動せしむべし
- (3) 時々兒童を教師の位置に立たしめて號令を掛けしむべし
- (4) 休憩の時元の位置を離れざる様注意せしむべし
- (5) 時々軍隊の訓練を觀覽せしむべし
- (6) 特に精神上の訓練に重きを置くべし

第四 遊戯

遊戯

(一) 教授事項

- (1) 男子の部
 - (イ) 帽子取(級戯)
 - (ロ) 啞鈴送競争
 - (ハ) 俵運競争

(ニ) フットボール

(ホ) 擬馬競争

(ヘ) ターゲットボール

(ト) ボールタッグ

(2) 女子の部

(イ) バスケットボール(級戯)

(ロ) 千鳥競争

(ハ) ボール送競争

(ニ) 列車競争

(ホ) 擲取競争

(ヘ) チグザグボール

(ト) カドリール

(チ) タンツライゲン

(リ) カレドニアン

(二) 教授上の注意

- (1) 極めて快活に而も規律正しく演技せしむべし
- (2) 正々堂々と勝敗を争ひ決して卑劣なる行為あらしむべからず
- (3) 團體の勝敗に着目し個人間に於て争をなさしめざるやう注意すべし
- (4) 勝敗審判の後に於て彼此論争せざるやう注意すべし

第十節 手工科教授

本科教授の方針

一 本科教授の方針

教則第十二條第一項の規定によると

手工ハ簡易ナル物品ヲ製作スルノ能ヲ得シメ工業ノ趣味ヲ長シ勤勞ヲ好ム習慣ヲ養フヲ以テ要旨トス

と指示されてある。今之を分解するときには、(一)簡易なる物品を製作する技能を得しむること、(二)工業の趣味を助長すること、(三)勤勞を好む習慣を養ふことの三つになるのである。

簡易なる製作

(1) 簡易なる製作 是は本科教授の主眼の目的であつて、後の第二第三の目的は此の目的を達すると同時に自然に達し得らるゝ間接目的なのである。故に本趣旨の貫徹には最も多大の努力を要する次第であるが、扱之をなすには、第一に眼及び手の練習を十分に於て、精密なる物體の觀察力と遺憾なき手指の働きとによりて、自由自在に簡單なる物品を製作せしめ得る様にせねばならぬ。而して茲に所謂簡易なる製作も、本學年の如き相當の修練を積み居る兒童には、幾分參酌を加へて相當に趣味ある物品を製作せしむるやうにせねばならぬのである。

工業趣味の養成

(2) 工業趣味の養成 是は兒童をして自己が苦心慘憺種々工夫を凝して製作した品物に對して一種の愉快を感じしめ、以て自然に其の工業に對する趣味を助長せしめようとする趣旨に外ならぬのである。古來我が邦人は農業を重んじ工業を輕んじた結果、此の方面の趣味が甚だ薄く、隨うて其の知識も甚だ淺薄であつたのである。然るに近來人口の増殖と世界各國の現状とに鑑みて、此の方面の發展を要すること頗る切になつて來たのであるけれども、事實は未だ甚だ

幼稚の域を脱せないのであるから、今後は大に此の方面に力を用ひ、國家の發展に資する所がなくてはならぬのである。

(3) 勤勞を好む習慣の養成 是は本科の如き實地的作業によりて養成することが最も適切なのである。即ち工夫意匠の結果は直に之が加工品の上に現はれ、忍耐勤勉の結果は直に製作品の上に觀ることが出来るのであるから、どうしても苦心勤勉せなければならぬといふことを、兒童自身をして十分に自覺せしむることが出来るからである。夫故に本科に於ては十分に此の方面の目的を達する様に注意せねばならぬのである。

二 本科教授の材料

(1) 教材の選擇 教材の選擇に就ては、教則第十二條第二項の「手工ハ紙、絲、粘土、麥稈、木、竹、金屬等其ノ土地ニ適切ナル材料ヲ用ヒテ簡易ナル製作ヲナサシメ……」とあるに依らなければならぬことは申すまでもないことである。而して手工科一般の目的からいへば、成るべく多種多様の細工物を課して、各種の工業に關する普通一般の知識と趣味とを養成すべきであるが、兒童の能力と各種細工の

難易等とを考へばならぬのであるから、本學年に於ては普通に粘土細工、切抜細工、厚紙細工、製本細工等を課したならばよからうと思ふのである。併し是は勿論普通一般に就て述べたのであるから、土地の状況に依りては大に加除參酌し、又各種細工物の中に於ても、大に取扱上の輕重を異にせねばならぬのである。例せば麥稈細工や經木細工の盛なる地方では、無論此等の細工物を加へ課する必要があるが、製陶業、竹細工の盛なる地方に於ては、大に粘土細工、竹細工に重きを置く類である。

前記各種の細工に於ては、成るべく家庭に於て實用に適する様製作せしめねばならぬ。例へば狀挿の製作、帳面の製作、塵拂の製作の如き、一として實用に適しない物のないやうに注意することが必要である。較もすると折角此等の物品を製作しながら、何の實用にも適しない、ほんの模型的申譯のものにするといふ様の弊があるから十分の注意を要する次第である。

(2) 教具及工作材料 前記各種の細工用としては、切出小刀、鋏、錐、竹筥、尺、定規、ブンマハシ、製作臺等の教具を要するのである。而して此等の教具は成るべく一定

のものを校費を以て買求め之を貸與する様に致したいのである。若しも學校の經費で之を支辨することの出来ない様な場合には、一定の品を指定して兒童に之を購入せしめる様にすることがよいのである。

次に工作材料も一々兒童をして之を購入せしむる時は、甚だ不便なるのみならず、教授上非常に困難でもあり且つ不經濟でもあるから、是非とも校費を以て一定のものを購求し、之を一般に給與する様に致したいのである。若しそれが出来ない様な場合には、必要の經費だけを兒童から徴收して、學校で纏めて之を購入し給與するやうに致したいのである。

三 本科教授上の注意

- (イ) 他教科特に圖書科との連絡に注意し、多くの場合下圖によりて之を製作せしめ、時に製品を寫生せしむる等のことあるべし。
- (ロ) 製作品は實用を主とし、虚飾的模型的に流れざる様注意すべし。
- (ハ) 物品の製作前教師先づ自ら製作工夫して教授上の参考となすを要す。
- (ニ) 説明示範に多くの時間を費さず、出來得る限り實習に重きを置くべし。

本科教授上の注意

- (ホ) 材料は教授時間前豫め當番をして之を配布し置かしむべし。
- (ヘ) 工具の整理整頓に注意し、併せて清潔の習慣を養成することに努力すべし。
- (ト) 手工材料を徒らに消費せしめず、つねに節約利用の途を講ずるやう指導すべし。
- (チ) 熱心事に従ひ必ず品物の完成を期し、以て忍耐勤勉の諸徳を養成すべし。
- (リ) 優秀なる作品は標本として之を保存し、且つ一般兒童に示して獎勵の一助となすべし。
- (ヌ) 時々工場商品陳列場などを參觀せしめて物品製作の實況を觀察せしめ、且つ製作品に對する鑑賞力を増進せしむべし。

四 手工科教授の實際

第一 筆洗 (粘土細工)

- (一) 教具及材料 粘土板、竹筵、尺、雜巾、筆洗、粘土約二十五人に付二貫匁
- (二) 教授の要項及注意
 - (1) 筆洗の分解圖を作らしむ
 - (2) 厚さ一分許の粘土板を作らしむ
 - (3) 幅八分

手工科教授の實際

筆洗

輪違

長六寸の長方板(周圍)直徑二寸の圓板(底)長さ一寸八分幅八分の長方板仕切を
 作らしむ (4)底と周圍とを接合せしむ (5)仕切板を挿入して接合せしむ
 (6)本學年よりの教授時間は成るべく一回に二時間繼續せしむるを可とす
 (7)初回到大體を整へ置き次回に少しく硬くなりたるを度とし正確に仕上げ
 しむ (8)接合部を鞏固にし乾燥後離開せざるやう注意すべし

第二 輪 違 (粘土細工)

(一) 教具及材料 粘土板、竹篋、尺、雜巾、輪違の標本、粘土(約二十五人に付二貫匁)

(二) 教授の要項及注意

(1) 正面圖及切斷圖を作らしむ (2) 粘土の紐を捻りて輪違を作らしむ (3) 紐
 の重ね目に泥を塗りて密着せしむ (4) 裏面を少しく平にし假に臺板に附着
 して表面を整へしむ (5) 地板を作り之に貼付せしむ (6) 正面圖及切斷圖を
 作らしむ

第三 河 骨 (粘土細工)

(一) 教具及材料 粘土板、竹篋、尺、雜巾、河骨の葉、粘土(約十五人に付一貫匁)

河骨

結 雁

正八角形
 正十六角形

(二) 教授の要項及注意

(1) 正面圖を作らしむ (2) 卵形の地板を製作せしむ (3) 粘土を臺板に壓して
 扁平となし所望の形狀に延ばさしむ(切抜細工にて豫め河骨の形狀を作り之
 によりて形狀を修むるも一法なり、又野板に依るときは正しき形を得ること
 容易なれども成るべく目分量にて製出するを可とす) (4) 押篋にて各部を修
 理せしむ (5) 地板に貼付せしむ (6) 斷面圖を描かしむ (7) 盛上に高低の差
 多きは野鄙に見ゆる故成るべく高低の差を減ずる様注意すべし

第四 結 雁

(一) 草木の葉花等の寫生

(二) 粘土細工

第五 正八角形、正十六角形 (切抜細工)

(一) 教具及材料 裁板、鋏、切出小刀、尺、三角定規、正八角形、正十六角形の圖、同切抜の
 標本、正方形の色紙並に同形練習紙

(二) 教授の要項及注意

中心角
度

- (1) 方形の折紙を對角線を軸として三角形になるやう三回折り返さしむ (2) 切出小刀にて二等邊三角形になる様裁ち切らしむ (3) 方形の用紙を(1)の如く四回折り返さしむ (4) 二等邊三角形になる様裁ち切らしむ

第六 中心角、角度、分度儀

- (一) 教具及材料 分度儀の實物及廓大圖

(二) 教授の要項及注意

- (1) 中心角の意義 (2) 角度測定の原位置 (3) 中心角の總和は三百六十度なること (4) 分度儀の使用法

第七 正多角形と圓形との關係

- (一) 教具及材料 圓規、三角定規、手工帳、鉛筆

(二) 教授の要項及注意

- (1) 方二寸許の正方形を畫かしむ (2) 正方形と軸を一致せしめて正八角形を畫かしむ (3) 同上十六角形を畫かしむ (4) 以上の正多角形に外接する圓形を畫かしむ (5) 直徑、半徑、圓周の説明 (6) 圓規の効用、使用法を丁寧に説示す

正多角形
と圓形との
關係

べし

第八 平角に黒餅 丸に三角形 (切抜細工)

平角に黒餅
丸に三角形

- (一) 教具及材料 裁板、鋏、切出小刀、尺、三角定規、圓規、切抜の標本、正方形の色紙、同形の練習紙

(二) 教授の要項及注意

- (1) 方形の折紙の對角線を軸として三角形になるやう三回折り返さしむ(但し最後には一枚宛反對の側に折り返さしむ) (2) 圖を畫きて切抜かしむ(製作圖)
- (3) 正方形の用紙の對角線を軸として二つに折り返へさしむ (4) 更に二等邊三角形を三等分する様前後に折り返へさしむ (5) 圖を畫きて切抜かしむ(製作圖)

第九 丸に七曜 劍梅鉢 (切抜細工)

丸に七曜
劍梅鉢

- (一) 教具及材料 裁板、鋏、切出小刀、尺、三角定規、圓規、切抜の標本、用紙、正方形の色紙、練習紙共

(二) 教授の要項及注意

(1) 折り方前課 (3) (4) に同じ (2) 圖を畫きて切抜かしむ(製作圖) (3) 正方形の用紙を對角線によりて二つに折り返さしむ (4) 更に二等邊三角形を三等分する様に折らしむ (5) 圖を畫きて切抜かしむ(製作圖)

(三) 補充 轡丸に二つ引、三角に黒餅、大の字片食、水仙、鐵線、劍片食、菊、切抜細工)

長方直柱

第十 長方直柱(蝶番蓋小箱) 厚紙細工

(一) 教具及材料 裁板、切出小刀、定規、尺、剪刀、ボール紙、色紙、目張紙、糊、製作圖及小箱の標本

(二) 教授の要項及注意

(1) 蝶番蓋小箱の圖並に展開圖を畫かしむ (2) 厚紙を所定の寸法に裁ち之に界線を畫かしむ (3) 兩袖に充つべき厚紙二枚を裁たしむ (4) 兩袖を貼付せしむ (5) 界線を切込み折曲げて長方體に組立て上面の周圍を除く外各稜を貼付せしむ (6) 上面を切離して開閉自在なる蓋となす (7) 色紙にて市松模様を作らしむ

長方直柱 製圖

第十一 長方直柱製圖

斜方形

(一) 教具及材料 裁板、切出小刀、定規、尺、ボール紙、鉛筆、作圖、前回製作の小箱

(二) 教授の要項及注意

(1) 作圖を示して寸法を定む (2) 作圖の寸法に従ひて厚紙を四部に區分せしむ (3) 厚紙の一部を切去らしむ (4) 残りの三部に成るべく細く方野を畫かしむ (5) 前回は製作したる小箱と對照して方野の正否を訂す (6) 作圖と長方直柱とを比較して投影畫の性質を會得せしむ

(三) 補充 文具箱 (厚紙細工)

第十二 斜方形 (厚紙細工)

(一) 教具及教材 裁板、切出小刀、定規、尺、ボール紙、鉛筆、作圖

(二) 教授の要項及注意

(1) 作圖に就き斜方形の説明をなす (2) 厚紙にて同形の斜方形二枚を作らしむ (3) 一枚の一邊を切り取り他邊に貼付して長方形に變ぜしむ (4) 一枚の斜方形を長方形と比較して異形等積なることを知らしむ (5) 製作物の寸法を測りて雙方の面積を比較算定せしむべし

第十三 斜方直柱 (被蓋小箱) (厚紙細工)

(一) 教具及教材 裁板、切出小刀、定規、尺、剪刀、ボール紙、色紙、目貼紙、糊、製作圖及斜方直柱の標本

(二) 教授の要項及注意

- (1) 展開圖を描かしむ
- (2) 厚紙に底となるべき斜方形を畫かしむ
- (3) 各邊より直角に伸して側面となるべき四個の長方形を描かしむ
- (4) 手掛となるべき三分圓を畫かしむ
- (5) 厚紙を切取り折曲げて目貼をなさしむ
- (6) 色紙にて上貼をなさしむ

第十四 同上製圖 (厚紙細工)

(一) 教具及教材 斜方直柱、被害小箱、手工帳、鉛筆、斜方直柱投影圖

(二) 教授の要項及注意

- (1) 直方直柱を示して製圖法を工夫せしむ
- (2) 縦横兩線を描き角度の正否を訂さしむ
- (3) 正面圖を畫かしむ
- (4) 平面側面の兩圖を畫かしむ
- (5) 机間巡視中各個人に就き批評説明を加へ時々一般兒童に對して重要なる注意を與

ふべし

(三) 補充 突出し箱 (厚紙細工)

第十五 筆記帳 (製本細工)

(一) 教具及教材 裁板、定規、洋紙、錐、切出小刀、尺、剪刀、糊、絲、表紙及表紙を付けざる筆記帳、仕上げたる筆記帳

(二) 教授の要項及注意

- (1) 洋紙を四枚宛重ね二つ折にして數個重ねしむ
- (2) 四孔若くは五孔を穿ち往復絲にて綴ぢしむ
- (3) 押糊を表裏の綴目の邊より右側へかけて塗付せしむ
- (4) 表紙を附けしむ
- (5) 上下の揃ふ様裁切らしむ
- (6) 表題の紙片を貼付せしむ
- (7) 裁切は本課の主眼とするものなれば十分説明をなし且つ教師自ら兒童の眼前にて之を實試すべし

第十六 和本 (製本細工)

(一) 教具及教材 裁板、定木、半紙、錐、切出小刀、尺、剪刀、糊、絲、絹布、片表紙及び表紙を付けざる和本、仕上げたる和本、焼鏝

(二) 教授の要項及注意

- (1) 半紙二十枚を縦に二つ切にし之を二つに折りて上下及左側を揃へ重ねしむ
- (2) 右方二箇所を小燃にて綴ぢしむ
- (3) 上下及び右端を裁ち切らしむ
- (4) 紙にて裏張したる絹布片にて兩隅を包み焼鏝を當て、形を正さしむ
- (5) 表紙を附けしむ
- (6) 表題の紙片を貼附せしむ

洋本

第十七 洋本 (製本細工)

- (一) 教具及教材 洋紙、厚紙、上貼用紙、布片、絲、針、糊、刷毛、裁板、定規、切出小刀、剪刀、仕上げたる洋本、仕上げの順序を示す冊子

(二) 教授の要項及注意

- (1) 洋紙を四枚重ね中央に四個の孔を穿つ
- (2) 裏より絲を通して確と中程にて結ばしむ
- (3) 右半分の上二枚を上方に下二枚を下方に折らしむ
- (4) 以上の分冊を八折乃至十折重ねて綴ぢしむ
- (5) 上下及左端を端正に裁たしむ
- (6) 表紙を附けしむ

三角形

第十八 三角形 (厚紙細工)

- (一) 教具及教材 裁板、定規、切出小刀、尺、剪刀、ボール紙、糊、目貼紙、製作圖

(二) 教授の要項及注意

- (1) 二等邊直三角形、直三角形、正三角形、銳角三角形、鈍角三角形の五種につき等形なるもの各二枚を切り取らしむ
- (2) 各の一板を高さの正半より底邊に平行して切斷せしむ
- (3) 切斷し得たる三角形を残りの四角形に貼付して長方形を作らしむ
- (4) 三角形と長方形との面積比較
- (5) 面積を求むる算法の説明

正三角直柱

第十九 正三角直柱 (厚紙細工)

- (一) 教具及教材 裁板、定規、切出小刀、尺、剪刀、手工帳、ボール紙、色紙、糊、圓規、製作圖、正三角直柱

(二) 教授の要項及注意

- (1) 實物及製作圖により圖法及製作法を説明す
- (2) 投影圖を畫かしむ
- (3) 剖展圖を畫かしむ
- (4) 剖展圖により正三角直柱を製作せしむ
- (5) 三角直柱の體積算法説明

第二十 正三角錐 (厚紙細工)

(一) 教具及教材 裁板、定規、切出小刀、尺、剪刀、手工帳、ボール紙、色紙、糊、圓規、製作圖、正三角錐

(二) 教授の要項及注意

- (1) 實物及製作圖により圖法及製作法を説明す
- (2) 投影圖を畫かしむ
- (3) 剖展圖を畫かしむ
- (4) 剖展圖により正三角錐を製作せしむ
- (5) 錐體の意義及各部の名稱
- (6) 錐體の體積算法説明
- (7) 錐體の面積算法説明
- (三) 補充 方錐體、正八面體 (厚紙細工)

第三章 兒童の自學

第一節 豫習及復習

豫習

豫習の必要

(1) 豫習の必要 從來の教授は兒童をして何等の苦難をも感ぜしめず、成るべく面白く成るべく容易に教授事項を領得せしむるを以て教授の巧妙なるものと

して賞揚し來つたが、教授の効果の思はしからざる結果、近來に至りては瀕りに自學自習の努力を鼓吹する様になつた。これは蓋し當然のこととして、努力の伴はない學習は到底眞正の學習的興味を起さしむること難く、少しく難解の所に至れば忽ち意氣挫折し、少しく面白からざる場合に遭遇すれば忽ち情氣を催し、到底満足なる効果を收むることは出來ないのである。况や學校卒業後自ら事物を觀察し、書籍雜誌等を繙き、自己の修養を積むが如きは、夢想だも及ぶことが出來ないのである。斯くして兒童は在學中に授與せられたる智能をさへ保持することが出來ない様になるのはまことに遺憾の至りである。

加之兒童が何等の苦難を感ぜず、易々として學習した事項は、記憶も比較的薄弱であり、従つて忘却も亦早いのである。之に反して自己の苦心、自己の努力によりて得た記憶といふものは、確實鞏固なる印象となつて終生忘却しないものである。

更にもう一つ他の方面から考ふるときは、豫習は教授を容易にし且つ學習上の經濟となるものである。即ち豫習を課したる場合に於ては、教授の出發點又は

歸着點は略兒童が承知して居るから、無益の問答や意外の質問を省くことが出來、正々堂々と教授の肯綮に中り、常に必要な事項に向つて活氣ある教授をなすことが出来るのである。

以上の次第であるから學校に於ける一切の教育事業は、兒童の自學に依らしめ、兒童の奮勵努力に訴へ、以て學習的興味を喚起し、記憶を鞏固ならしめんことに盡力することが教育者として正當且つ經濟的な方法であるといはねばならぬ。殊に本學年の如き上級兒童にありては、一面心身の發育上からいっても、また卒業後の修養上からいっても、何等の弊害を認めず、且つ重要緊切なることであるから、教師は日々教授せんとする事項に向つて、豫め一定の計畫と一定の指導の下に豫習をなさしめねばならぬのである。

(2) 豫習事項 兒童の學習上豫習の必要なことは前既に述べた通りであるが、併し只漠然と豫習を命じただけでは、兒童は如何なることを豫習してよいか、尤て雲をつかむやうであつて、隨うて折角豫習したことも、或は方角違ひの横道へ入り込み、或は教授に對しても何等の効果を收め得ないやうな結果に了るのである。

ある。それ故に學校に於て、苟も豫習を課する場合には、教師は先づ如何なることを如何なる程度まで、如何なる方法によりて課するかといふことを綿密丁寧に調査し、之によりて豫習をなさしめ、兒童をして徒勞に終らしめない様に注意することが必要である。依つて今本學年に於て課する豫習事項を左に掲げよう。

(イ) 國語、讀方科 普通の辭書を用ひて讀方意義を取調べしめ、尙不審のものは自習帖に之を記入して教場に持ち出さしむ。各文段の大意を把握して之を自習帖に記入し置かしむ。本文と對照して挿畫の觀察をなし置かしむ。文章の善い所を考へ置かしむる等である。

(ロ) 算術科 所定の問題に對する概算又は精算をなし、説明の順序を考へ置かしむるのである。

(ハ) 歴史科 讀方を調べ、不審の文字を自習帖に記入し置かしむ。教科書の見出しの順に事實の概要を調べて自習帖に記入し置かしむ。本文と對照して挿畫の觀察をなし置かしむる等である。

(二)地理科 位置、地勢、都會、交通、產物、名所、舊蹟の各項目につき取調べ、之を自習帖に記入し置かしむ。本文と對照して挿畫の觀察をなし置かしむる等である。

(ホ)理科 豫め實驗觀察の要項を指示して、實物實地に就きて實驗觀察を行はしめ、其の結果を自習帖に記入し置かしむる等である。

以上はほんの大體に過ぎぬけれども、日常吾人が教授上に於ては、豫め兒童に指示して豫習せしめ置けば、隨分手數の省けることが澤山あるのであるから、教師たる者は此等の點に關し、豫め十分の調査をなし、實地の教授に際して、徒に時間を浪費することなく、最も必要な事項に對して、十分力を用ふる様の用意をなし置くことが肝要なのである。

(3)豫習の方法 豫習事項が具案的に組織的に決定されても、まだ豫習の目的は満足に達せられないのである。何となれば事項が決定されても、若し之を實施する方法が適當でなく粗漏であつたならば、決して教師の豫期する様な結果は得られないからである。今日世間一般の學校に於て、たとひ豫習の必要が認め

られて居ても、之が有効適切に行はれないのは全く此の方法に違算があるからである。故に教師は一面に豫習事項を決定すると同時に、一面には其の實施方法に關して遺憾なき計畫を立て、兒童をして指定されたことだけは、どうしても豫習しなければならぬやうにさせねばならぬと信ずるのである。今此等の方法に關する吾人の希望を左に述べよう。

第一には自習帖を持たしむるといふことが肝要である。前既に述べたやうに、教師より指定されたことを、必ず豫習しなければならぬやうにするには、是非とも其の成果が形の上に現はるゝ様にしておかねばならぬのである。豫習せよ豫習せよと教師よりやかましく責められても、兒童は頗る無頓着がちであるから、優良兒童五六名を除く外は、大抵粗雑なやり方か、或は實際之を爲ないで、爲たやうな振りを装ふ者が多いのである。それ故に兒童各自に自習帖を持たしめ、前記豫習事項の中、何々に就き豫習すべきかを指示し、其の結果は必ず自習帖に書取らせ置けば、後段述べたる所の豫習事項の吟味と相俟つて頗る有効に豫習を實行せしむることが出来るのである。

第二には豫習の機會を設けるといふことである。從來多くの學校に於て行はるる豫習の方法は、毎教授時間の初五分乃至十分間に於て兒童に取調を命じ、これを教授の出發點として授業に取掛るのである。斯くの如きやり方では、學級中の優良兒童には多少効果があらうけれども、多數兒童には何等の効力もなく、或者は豫習の半途に、或者は全然豫習しないで済ますといふことになり、全く形式的上りの豫習に終るのであるから、苟も學校に於て豫習を課する以上は、十分有効に之を實施するやうに致したいのである。それには教授時間中の豫習といふことを避け、毎日放課時間後三十分乃至一時間位づゝ全兒童を教室に入れ、教師監督の下に、指定の豫習事項を任意に豫習せしむるのである。若し家事の手傳などの爲め學校で出来ないものには、豫習事項だけを寫取らせ、家庭で之を行はしめるのである。

而して前記放課後の豫習に際しては、優良兒童と劣等兒童とを組合せたる豫習團を設け、相助け相率ゐて之を爲さしむるのが頗る有効の方法であると信ずるのである。

第三には豫習事項を吟味するといふことである。豫習事項を指示し之が機會を設けて、豫習せしめた結果については兒童が如何に努力したてあらうか、どんなところまで出来たてあらうかといふことを吟味することは豫習の獎勵上最も大切なことである。蓋し兒童が折角豫習して來ても、之を認めてくれるものがなかつたならば、學習に無慾なる幼年兒童の常として、一向に張合もなく、溢々これを行ふといふことになり、表からは豫習を責め立てても、裏からは之を閑却するといふ結果に終るのである。加之豫習事項を吟味すれば、教師に取つては、教授上反省の材料となり、少からざる便宜を得るのであるから、教師は常に自習帖に就き、或は教授時間中に於ける問答により、豫習の結果を精密に吟味し、優等なるものは之を賞揚し、不良なるものは之を戒飭する等獎勵を怠つてはならぬのである。

復習

復習の必要

二 復習

(1) 復習の必要 豫習が如何に綿密周到に出来ても、教授が如何に親切巧妙であつても、通り一遍の教授に了つて、後始末の復習が完全に行はれなかつたならば、

到底満足なる効果は收め得られないのである。夫故に教授の結果を完成せしめ、所期の努力苦心による復習を勵行しなければならぬのである。従來の教授は新事項の授與に頗る親切であつたが、併し後始末のない教授であつて、從うて注入すれば直ちに遺漏する様な心細い教授であつたのである。近來學校教育につき彼此世間から批難攻撃を受けるのも、此の復習の缺如といふことが體に其の一原因なのである。且つ反覆練習が確實堅牢なる知識を得しむるといふことは、今更論ずるまでもないことであるから、今後の教授に於ては是非とも教授事項に關し、具案的に組織的に充分に自學的復習を行はしめ、一旦教授したる事項は、兒童の永久的所有物となり、確實堅牢なる記憶となり、而も日常生活の實際に當りて運用自在ならしむるやうに、鍛練して置かねばならぬのである。

(2)復習事項 上述の如く復習の教授に對する關係は實に重要なるものであるにも拘らず、従來は只單に口先ばかりで復習せよと兒童に命令督促しただけ、何等の復習事項をも指示しないのであるから、兒童は其の適從する所を知らず、たゞ復習する者があつても、教師の豫期する様な効驗を收め得ぬ結果

に陥つたのである。それ故に今後は此の復習に於ても、豫習に於けるが如く豫め兒童の自學にて復習し得らるゝ事項を調査し、教授の終りたる後には、必ず一定の復習事項を指示して之を實行させるやうに致したいのである。今本學年に於て課すべき復習事項を左に示さう。

(イ)修身科 格言を解釋し又暗寫せしむ、例話の要領を書取らしむ、説話に關係する勅語の語句を書取らしむる類である。

(ロ)國語科 文字語句の復習應用、文の改作及び分解、假名遣の練習、美文佳句の暗誦、事實の記述、豫習事項の補正記述等をなさしむる類である。

(ハ)算術科 主として兒童用算術書に掲げたる問題の計算及び解説をなさしむるのである。

(ニ)歴史科 教科書上欄の見出に對する解答をなさしむ、教師の設問に對する解答をなさしむ、豫習中に於て誤りたる事項を補正せしむる類である。

(ホ)地理科 教科書上欄の見出に對する解答をなさしむ、教師の設問に對する解答をなさしむ、地圖を描かしむ、豫習事項の補正記述をなさしむる類である。